

環境レポート

Sustainability Report

2010

SARAYA

ISO 認証・環境格付・参加イニシアチブなど

ISO 認証取得状況

認証規格	認証対象	認証対象部署	認証年・月日	認証番号
ISO 9002	サラヤ株式会社	大阪工場・伊賀工場	1999年 12月 13日	JCQA-0608
	スマイル産業株式会社	全社		
ISO 14001	サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社 スマイル産業株式会社	全社	2001年 11月 26日	JCQA-E-0319
ISO 9001	サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社 スマイル産業株式会社	全社	2002年 12月 13日	JCQA-0608
	莎羅雅潔具製品廠	全社	2005年 11月 1日	2516-2005-AQ-RGC—UKAS
	Saraya M F G. (Thailand) Co.,Ltd.	全社	2006年 12月 7日	Perry Johnson Registrars, Inc. C2006-03284
ISO 13485	サラヤ株式会社	本社、研究開発部門、大阪工場 バイオケミカル研究所、伊賀工場	2006年 12月 22日	Q1N0612 60114002
ISO 14001	Saraya M F G. (Thailand) Co.,Ltd	全社	2008年 11月 26日	C2008-02808
ISO 22000	サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社	食品衛生インストラクター、検査室、 各本社 食品衛生部	2008年 12月 8日	12510 34993 TMS

ISO 9001
(全社)

ISO 14001
(全社)



ISO 13485



ISO 22000

環境格付・環境配慮評価融資

取得年月	環境格付	格付機関	調査の結果	環境スクリーニング項目など
2008年 8月	DBJ 環境格付	日本政策投資銀行	1. 環境への配慮に対する取り組みが特に先進的	①経営全般における環境経営推進のための取り組み ②事業の各段階における具体的な環境対策 ③主要な環境側面に関するパフォーマンスの改善度
2009年 3月	SMBC 環境配慮評価融資	株式会社 三井住友銀行	大変優れた環境配慮を行っているとの最上位の 評価 (※)	環境負荷把握の状況 環境マネジメントシステム 環境コミュニケーション



※「本融資（SMBC 環境配慮評価融資）では初となる、企業経営において大変優れた環境配慮を行っているとの最上位の評価となりました。」三井住友銀行ニュースリリースより（http://www.smbc.co.jp/news/html/j200434/j200434_01.html）

環境・CSR 関連イニシアティブ

署名・加盟年月	署名及び加盟 イニシアティブなど	
2008年 4月	企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)	Japan Business Initiative for Conservation and Sustainable Use of Biodiversity
2008年 5月	ビジネスと生物多様性イニシアティブ (B&B イニシアティブ)	The Business and Biodiversity Initiative
2009年 6月	国連グローバル・コンパクト	United Nations Global Compact
2009年 6月	グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク	Global Compact Network Japan



サラヤ環境レポート 2010 年 発行にあたって

サラヤグループの地球環境や生物多様性の保全のための活動、そして環境マネジメントについて、皆様に広くお伝えすることを目的に 2002 年より、毎年秋に発行しております。写真やグラフを多用して、CSR のご関係者以外の方々にもわかりやすく、興味を持って読んでいただけるよう工夫をしています。

ご意見、ご感想、当社へのご希望などを別紙アンケートにご記入ください。または、当環境レポート WEB サイトの「アンケート」より、お寄せくださいますようお願い申し上げます。

サラヤ環境レポートサイト

<http://www.saraya.com/env/>

編集方針

構成

環境省「環境報告ガイドライン（2007 年度版）」「GRI サステナビリティ リポーティング ガイドライン Version3.0」を参考に内容を構成しております。

対象期間

データの集計期間は、2009 年 1 月から 12 月としていますが、一部に当社の決算期である 2008 年 11 月～2009 年 10 月の集計データも含まれております。報告の活動内容は 2009 年を中心にしておりますが、一部に 2009 年以前や 2010 年の内容、写真が含まれています。

集計対象事業所

サラヤ株式会社、東京サラヤ株式会社、スマイル産業株式会社の全事業所と Saraya MFG.(Thailand)Co., Ltd. を対象としております。

発行履歴

2002 年 7 月、発行開始より年 1 回発行。
次号発行は 2011 年秋を予定しております。

インターネットでの公開

2002 年 8 月より、サラヤホームページ上にも環境レポートのサイトを公開しております。併せてご覧ください。
(<http://www.saraya.com/env/>)

もくじ

1. 環境経営	2
持続可能な環境経営を目指して	2
受賞	4
2. 世界の衛生に貢献	5
3. 環境マネジメント	8
目標と課題	9
2009 年の実績	10
2009 年の温室効果ガス排出量とマテリアルフロー	13
4. 生物多様性保全の取り組み	14
5. グリーン調達	16
6. 自然派のものづくり	18
自然派の原点	18
商品開発	19
バイオサーファクタント（ソホロリビッド）と認証パーム油	20
7. 新事業	22
低炭素化	22
水処理	23
持続可能な建築にリフォーム	23
トナー・カートリッジのリユース	23
8. 原料供給地の環境問題	24
サバ州と私たちの生活の関係	24
ボルネオの生物多様性と野生生物の救出	26
緑の回廊計画	28
RSPO 持続可能なパーム油のための円卓会議	29
9. 環境教育と環境コミュニケーション	30
10. 社会貢献	32
11. お客様とサラヤ	34
12. 従業員とサラヤ	36
人事	36
福利厚生	38
13. サイトレポート	40
この 10 年の EMS 活動を振り返って	42
会社概要	44

1. 環境経営

持続可能な環境経営を目指して

1. 新型インフルエンザ

2009年に、世界中でH1N1型のインフルエンザが大流行しました。当社もその予防のための、手洗い石鹸液、手指消毒剤、マスクや衛生基材の供給で、仕事がたいへん忙しくなりました。急激に増える即時納品のご要望に、日本だけではまかないきれず、世界的なサプライチェーンを構築し、できる限りの対応をさせていただきました。

その後2009年の12月あたりから、感染が収束し始め、それにつれて需要も急速に収束しました。ただ、この期間中、衛生の重要性や、手洗い・うがいなどの衛生習慣について、一般消費者の方々の認識が高まりました。新型インフルエンザについては、インドネシアで、ヒトへの感染性は未だ認められていないものの、鳥インフルエンザ（強毒性）が豚インフルエンザ（弱毒性）とまざったとの情報もあり、引き続き注意深く見守っています。

2. その他の感染症について

日本では、病院で多剤耐性菌による院内感染が社会問題になりつつあります。国内の病院で、多剤耐性アシネトバクターによる院内感染で、患者がこのためにお亡くなりになったニュースも報道されました。また多剤耐性緑膿菌、多剤耐性結核菌など、その他の耐性菌も現れて、医療の現場に脅威を与えています。この背景には、抗生物質の多用があげられますが、医療のみならず、食品製造の分野でもこの耐性菌の現出傾向がみられます。

サラヤでは、感染予防や食品衛生の分野で、できる限り環境負荷の少ない方式で、かつ抗生物質の多用を防ぎ、バクテリアやウイルスをコントロールする、様々な取り組みを実施しております。まず、手洗いや洗浄、そして消毒・滅菌の分野で、過酢酸や電解水、皮膚に優しく環境負荷の少ない消毒剤の利用を促進しています。

これらはまだまだ不十分ですが、お客様や社員の理解促進をはかり、スピードを上げて変革を進めたいと考えております。

ジャカルタ 第3回ビジネスと生物多様性
チャレンジ会議 2009 12/1



感染予防・健康 企業対策シンポジウム
2010 6/10



コタキナバル オランウータン保全会議 2009 10/2



クアラルンプール RSPO 第7回総会 2009 11/3009 12/1



SusCon (International Conference on Sustainable Business and Consumption) 2010 6/16



3. ウガンダの手洗い事業

サラヤでは、本年よりユニセフに協力して、アフリカ ウガンダで「SARAYA 100万人の手洗いプロジェクト」を始めました。ウガンダでは、下痢、マラリア、エイズが子供達の死亡の3大原因になっています。下痢の原因菌が、手指を介して食物や口に付着し、下痢をおこします。このため、母親や生徒達に、トイレのあとや食事の前に手を洗う、「手洗いの重要性」や、「正しい手洗いの方法」を理解してもらい、その実行を勧めるプロジェクトです。

この後2011年には、ウガンダでも支援だけでなく、環境・衛生・健康にからんだ、サラヤの事業を開始する予定です。



2010年2月にウガンダを訪問

4. ボルネオの森を守るプロジェクトと RSPO

2009年にクアラルンプールで開催されたRSPO第7回総会では、再度「ボルネオの森を守るプロジェクト」を紹介しました。そして、持続可能なパーム油の認証制度に、この「緑の回廊」のコンセプトを含むようアピールをしました。また2010年から利用可能になっているRSPOの認証を受けたパーム油を用いた商品の商業化について、遅くとも2010年の末までには達成できる見込みで、プロジェクトを進めています。

またボルネオの森を守るプロジェクトに対するサポートも継続しており、ヤシノミ洗剤の売り上げの1%の貢献、その他ボルネオの森の展示会、NPOのサポートも継続しています。

5. 生物多様性関連国際会議参加

2010年10月18日～29日には、愛知県名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)が開催されました。当社は、これに先立って、2009年12月1～2日にジャカルタで開催された準備会議(CBD 3rd Business & the 2010 Biodiversity Challenge Conference)に、さらに2010年6月15～16日にドイツ ニュルンベルグ メッセで開催されたSusCon (International Conference on Sustainable Business and Consumption)に参加し、当社の活動の紹介をし、意見交換をしました。

CBD COP10では、生物多様性交流フェアに出展し、展示ブースを設け、フォーラムも主催しています。また、サイド・イベ

ントにもスピーカーとして参加します。これらの機会に生物多様性とパーム油の問題の対応について問題提起をし、意見交換をし、対応をはかります。

またその後2010年11月に、大阪で開催される青年会議所世界会議でも、生物多様性のブースを設け、生物多様性の大切さについてアピールをする予定です。

6. 当社の環境関連会社とのコラボレーションについて

環境負荷の削減、キレイな水づくり、生物多様性の実現など、当社の環境関連の仕事を進めるために、当社の関連企業とのコラボレーションを一層進めます。環境関連企業とは、

1. 株式会社 オフィス・ジャパン

オフィスの環境負荷を減らすため、無電極やLED照明、環境に優しい文房具、トナー・リサイクルの推進など提案をします。(http://www.o-japan.jp/)

2. 株式会社 関西再資源ネットワーク (KSN)

食品リサイクルを炭化という日本唯一のリサイクル認可施設で実施します。更に活性汚泥の高度処理や農業との連携をはかり、バイオマスの高度利用をはかります。(http://www.ksn.ne.jp/)

3. サラヤ環境デザイン株式会社 (SED)

ソーラー、断熱、照明、節水、その他オフィスやご家庭のエコや福祉のリフォーム、また水処理プロセスの提案をします。(http://www.saraya-sed.com/)

4. アクアテック サラヤ 株式会社

「世界の水をキレイに」を社是にしています。下水処理や排水の水処理機器のメーカーであり、エンジニアリングの会社です。(http://www.saraya-aqua.com/)

これらの会社と連動しながら、日本の環境、世界の環境の改善に貢献できる企業として邁進します。



サラヤ株式会社
代表取締役社長

更家 悠介



第19回地球環境大賞のフジサンケイビジネスアイ賞をサラヤグループが受賞いたしました。2010年4月8日に明治記念会館で行われた授賞式では、サラヤ株式会社社長の更家悠介が、秋篠宮殿下と同妃殿下のご臨席の元に、フジサンケイ ビジネスアイの縣 良二社長より表彰状とトロフィーを授与されました。

地球環境大賞は1992年、「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、産業界を対象とする顕彰制度として、財団法人世界自然

保護基金(WWF)ジャパン(名誉総裁・秋篠宮殿下)の特別協力を得て、創設されたものです。持続可能な循環型社会の実現に寄与する製品・商品・サービス・技術などの開発、環境保全活動・事業の推進と21世紀の社会システムの探究、地球環境問題に対する意識の一段の向上などの面で顕著な成果を上げ、社会の模範となる功績を収めた企業、自治体、学校、市民グループなどが表彰されています。



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に向けて、「生物多様性の保全」及び「生物多様性の持続可能な利用」を推進するため、環境省とイオン環境財団によって2009年6月、「生物多様性日本アワード」が創設されました。

第1回の受賞として8部門の優秀賞のひとつ「利用コミュニケーション部門」優秀賞をサラヤ株式会社が受賞いたしました。

授賞式は2010年10月9日名古屋市で行われ、イオン環境財団理事長 岡田卓也(イオン名誉会長相談役)よりサラヤ株式会社社長 更家悠介に表彰状とトロフィーが授与されました。

授賞式後には受賞者によるプレゼンテーションが行われました。(写真)

2. 世界の衛生に貢献

世界の衛生の向上に貢献することが、サラヤの本業です。



1960年頃、小学校に取り付けられた石鹸液容器とシャボネット石鹸液で手を洗う小学生達。

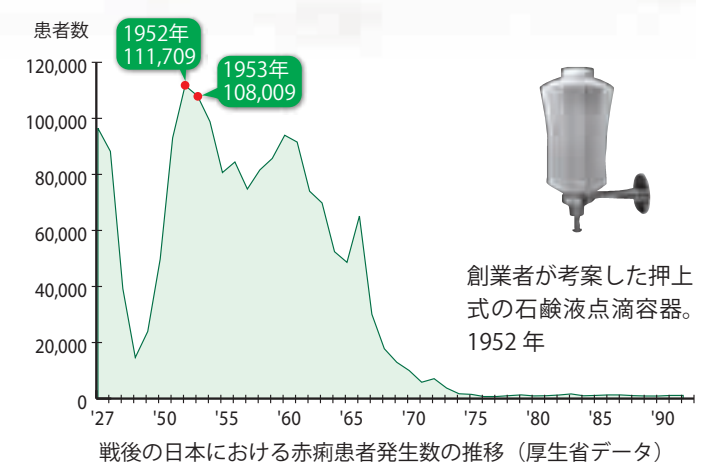
赤痢患者が多く発生していた1952年に創業

第二次世界大戦が終わった1945年から7年後の1952年に当社は創業しました。1952年は右グラフ 赤痢患者発生数の推移のように11万1千7百9名の赤痢患者が発生していた年です。ヤシ(コナツツ)油から、手肌にやさしく、殺菌剤ビオゾール配合の薬用石鹸液を開発・販売しました。「手のひらで真珠を転がすような泡立ち」という意味で「パールパーム石鹸液」と名づけられましたが、後に「シャボネット石鹸液」としてリニューアルしています。

ひとつ誤解を解きたいことは、「パーム」とは「手のひら」のことで、アブラヤシのパームではないということです。アブラヤシの本格的な商業栽培が始まったのは、1960年代に高収量品種のテネラ種(*tnera*)が導入されて以降のことです。マレーシアでは、1950年と1960年はパーム油の年間生産量は10万トン程に過ぎず、1970年から40万トンと増えはじめ、1980年に260万トンに、1990年は610万トン、2001年1180万トンと1970年以降に急激に伸びています(MPOB 2002より)。

この1952年当時はまだパーム油そのものが日本に出回ってはいませんでしたし、コブラ(ココヤシ)から得られたヤシ油を原料としていました。当社も1984年12月にパーム核油由来の原料の使用をはじめています。

少し話が脇にそれましたが、この石鹸液を衛生的に適量を取り出せる石鹸液容器を考案し、これを日本全国に取り付けることは、すなわち手洗いを基本とする衛生を日本全国に普及させることでした。当時の基幹産業であった紡績や鉄鋼の工場から石鹸液容器を採用いただき、1959年頃には小・中学校でも採用いただけるようになりました。1960年代に小学生であった50代以降の方には、「給食の前に手を洗ったあの緑色の石鹸液」と懐かしく思い出していただけることと思います。以来、手洗いを中心に日本の衛生を牽引してきたと言っても決して過言ではないのです。



2010年の商品、ノータッチ式ディスペンサー GUD1000

ウガンダで、100 万人の手洗いプロジェクト開始



世界手洗いの日

サラヤは、「世界の衛生に貢献する。」をメインテーマとして企業活動をしています。2009 年 10 月 15 日「世界手洗いの日」のボランティア パートナー企業としての参加をはじめました。これは「手をあらおう。手をつなごう。」のスローガンの下にユニセフが中心となって、2008 年よりはじめたものです。世界では、年間 880 万人もの 5 歳以下の子どもたちが、予防可能な病気が原因で命を落としています。せっけんを使って正しく手を洗うことで、その原因となっている下痢性疾患や肺炎を予防し、100 万人もの子どもたちの命が守られると考えられています。

SARAYA 100 万人の手洗いプロジェクト

この「世界手洗いの日」への協賛がひとつの契機となり、衛生を本業とするサラヤは 2010 年 3 年計画でアフリカのウガンダでの手洗いの啓発活動を開始しました。銘打って「SARAYA100 万人の手洗いプロジェクト」、2010 年秋より対象となる衛生製品（ハンドソープ・アルコール手指消毒液）のメーカー出荷額の 1% をユニセフに寄付し、ユニセフがウガンダで展開する「せっけんを使った正しい手洗い」の普及活動を支援します。目標額は、3 年間で 3 千万円以上とします。3 年間の活動目標は右の通りです。詳細は <http://tearai.jp> をご参照ください。

活動目標

- 100 万人を超える母親への啓発活動
 - 40 県、120 万人の母親/保護者を対象として、対面での啓発活動や広報活動を行い、石けんによる正しい手洗いの必要性和その方法を伝える。
 - 40 県、5 歳未満児の母親 45 万人が、手洗いイベントに参加するようにする。

自主的な衛生活動の支援

- 40 県 13,500 村を対象に研修を行い、正しい手洗いの必要性和その方法を広められるボランティアスタッフ（手洗い親善大使）を育成する。
- 40 県の手洗い促進プログラムが、適切な技術支援を受けられるようにする。

手洗い設備の建設

- トイレの隣に、きちんと使える状態の簡易手洗い設備を、合計 120 万基（年間 40 万基）、設置する。

現地メディアでの手洗いキャンペーンの展開

- マスメディアキャンペーンを展開し、5 歳未満児の母親の 40% が、正しい手洗いに触れる機会をつくる。



Potuke 小学校 校長

生徒たちの多くが、肝炎やコレラで家族を亡くしている中、「手洗いはあなたの命に関わる大切なこと」と指導しています。以来下痢疾患、腸チフス、コレラなど大幅に減りました。



ユニセフ ウガンダ事務所 広報
チュルフォ・ビュン氏

これから始まる手洗いプロジェクトは、ウガンダのすべての子供と母親たちのために、生きる機会、健康に育つ機会、学ぶ機会を提供するものです。

新型インフルエンザ対策講演会の開催

2009 年 4 月に新型インフルエンザが発生し、公共機関や企業、個人が対策を急ぐ中、衛生を本業とする当社は伊賀工場の 24 時間操業などで、お客様のご要望にお応えできるよう最善の努力をいたしました。

それでも、長年当社製品をご愛用いただいているお客様のご注文にすぐにお応えすることができないという不覚の事態も起こり、営業担当者も大変つらい思いをしながら、仕事に忙殺される日々を過ごしました。流行は収まりましたが、また 2010 年冬のシーズンに向けて準備はいたしておりますので、ご用命をお待ち申し上げております。

当社は手洗い石鹸液や消毒剤、マスクなどの対策商品とともに、新型インフルエンザの正しい知識や最新の情報、感染対策のマニュアルなどをお届けしています。2009 年は、社会貢献として新型インフルエンザ対策に関する講演会を右記の様に全国で開催いたしました。

新型インフルエンザ対策セミナー

- 1. 東京**
日時: 2009 年 1 月 23 日 (金)
15:30 ~ 18:00
場所: 泉ガーデンギャラリー (東京都)
参加: 273 名
- 2. 名古屋**
日時: 2009 年 2 月 10 日 (火)
15:30 ~ 18:00
場所: 栄ガスビル (名古屋市)
参加: 136 名
- 3. 大阪 (下写真左)**
日時: 2009 年 3 月 3 日 (火)
15:30 ~ 18:00
場所: 大阪商工会議所 (大阪市)
参加: 410 名
- 4. 福岡**
日時: 2009 年 3 月 24 日 (火)
15:30 ~ 18:00
場所: NTT 夢天神ホール (福岡市)
参加: 118 名

新型インフルエンザ(職業感染) シンポジウム

- 1. 東京 (下写真右)**
日時: 2009 年 8 月 5 日 (水)
14:00 ~ 17:00
場所: 品川セントラルタワー (東京都)
参加: 361 名
- 2. 名古屋**
日時: 2009 年 10 月 1 日 (木)
14:00 ~ 17:00
場所: ミッドランドホール (名古屋市)
参加: 131 名
- 3. 大阪 (下写真左)**
日時: 2009 年 8 月 20 日 (木)
14:30 ~ 17:00
場所: テイジンホール (大阪市)
参加: 235 名
- 4. 福岡**
日時: 2009 年 10 月 27 日 (火)
14:00 ~ 17:00
場所: 情報・産業プラザ (仙台市)
参加: 198 名



宮崎県口蹄疫対策支援

宮崎県で 2010 年 3 月 8 日に食用用牛 2 頭に発熱が見つかったのが口蹄疫の発症だとされています。拡散防止のため、29 万頭の牛・豚が殺処分されました。サラヤでは口蹄疫対策にお役立ちできるよう精力的にご提案しています。

2010 年 6 月 7 日、当社は九州営業所より被害の広がる宮崎県に口蹄疫対策用商品が無償提供いたしました。ヒビスコールガーゼ (10 枚入) 5000 個、サラヤジェル SH1 (40ml) 5000 本、うがい薬コロロ (20ml) 500 本を納めさせていただきました。同じく 17 日には、社員有志の義援金と会社からの支援金とを合わせ 100 万円を献上いたしました。



左から南九州出張所 帖佐所長、九州営業所 松藤所長、宮崎県福祉保健部 田原次長

100 万人の手洗いプロジェクト

対象商品

tearai.jp

シャボネット、ウォッシュポン、ハンドラボの石鹸液、消毒用アルコール製品が対象です。2010 年 9 月 1 日出荷分より 1% (一般小売のメーカー出荷売上) をユニセフの「SARAYA 100 万人の手洗いプロジェクト」に寄付いたします。対象商品についての詳細は <http://tearai.jp/howto.html>、をご覧ください。

また 2010 年 1 月より、シャボネット石鹸液、シャボネット石鹸液・ム、ヒビスコール SH、アルガーゼ、スクールデコ、連結式手洗い装置、ノータッチ式ディスペンサーなどの業務用商品からも売上の一部が寄付されています。

3. 環境マネジメント

全従業員が同じ理念や方針を共有し、衛生・環境・健康をテーマとして、日々の仕事にいきなっています。

環境方針

- 地球温暖化防止への寄与活動を推進します。
工場を始めとし、全事業所の使用エネルギー削減を推進します（省エネルギー）。
- 資源節約と再利用の促進を推進します。
 - 事業活動全般において使用する資源を節約するとともに、各種資材について可能なものに関しては、再使用、回収・リサイクル促進を推進します。
 - 事業活動全般において発生する廃棄物の削減を推進します。
- 環境負荷の低い製品開発に努めます。
設計・企画開発段階では、製品の環境負荷低減の検討を行います。
- 工場では、環境負荷物質の排出量削減・騒音・振動・悪臭抑制など周辺地域への環境影響に配慮し、地域に信頼される事業経営を行います。
- 地球環境問題の解決は、企業や地域での対応とともに地球規模での対応も必要であるとの認識から、生物多様性にも配慮し、先進国と発展途上国を持続発展可能なビジネスモデルで結びあうため、NPOや諸団体との連携を深めます。

行動指針

事業活動全般（開発—製造—管理—販売—物流 全部門）の環境影響評価を行い、環境方針・目的・目標を定め、1回／年 最高経営層による見直しを実施します。

又、全員参加の活動により、当社環境マネジメントシステムの継続的維持改善を図り、地球環境保護と環境汚染防止に努めます。

当社に関連する環境関連の法規・条例等の国、地方自治体公布の規則を遵守するとともに、企業体として受け入れたその他要求事項も遵守します。

品質方針

地球環境の保全、衛生、健康向上への寄与を目指し、お客様の信頼とニーズにお応えし、満足していただける製品とサービスをお届けする。

この為に、設計開発から製造・管理・流通・販売・サービスの提供に至る全社・全部門において顧客志向の観点から業務自己革新を図ると共に、当社全製品・サービスに関してお客様からの声をシステムのかつスピーディーに収集分析し問題点を明確にして、速やかにその問題解決を実行する。

さらに、顧客要求事項、法的要求事項を含む種々要求事項への適合を図ると共に、全社・全部門においては、経営方針・品質方針を目標展開した「部門目標」到達度に加え「その他不具合点」などを常時監視分析し、システムの有効性を維持し、かつ継続的改善を図るものとする。

環境マネジメントシステム

当社 EMS 環境マネジメントシステムは、右下の図の通りです。実際の活動単位は、事業所の中でさらに細分化され北海道から沖縄まで全国に渡り、全社 61 の部署単位で活動を行っています。EMS 全社事務局は、環境管理責任者を補佐し、全部門の日常活動管理を行います。

22 名の内部監査員が年 3 回の内部監査で各部署の活動実施状況の厳しいチェックを実施しております。これら活動状況は、全社環境保護推進委員会（常務会）に報告されると共に、最高経営者層（社長）には、定期的マネジメントレビューにおいてすべて詳細な報告がなされます。

環境内部監査

環境内部監査は年 3 回（3 月、8 月、12 月）実施。営業拠点と工場、本社関係も含め全国 61 の監査対象部署を監査チームが、年 2 ～ 3 回各 1 ヶ月程度かけて監査を行います。監査チームは 8 名の主任監査員と 14 名の監査員を中心に編成、監査部署に対して厳しい指摘や必要なアドバイスが提示できるよう監査員の人選に配慮しています。対象部署の応対は、営業所長、各部署長、推進責任者、推進担当が中心となり、監査チームの質問に応対しながら、指摘事項に対して部署として十分納得した上で対処にあたります。アドバイス事項として、監査対象部署のシステム向上に役立つと思われる意見を積極的に提示しています。




環境マネジメントシステム組織図

2009 年環境内部監査実施状況

実施時期	監査実施部署	不適合数	コメント数
第1回	57	1	184
第2回	60	1	171
第3回※	2	0	8

※ 第2回目の内部監査で不適合であった2部署のみ第3回内部監査を実施した。

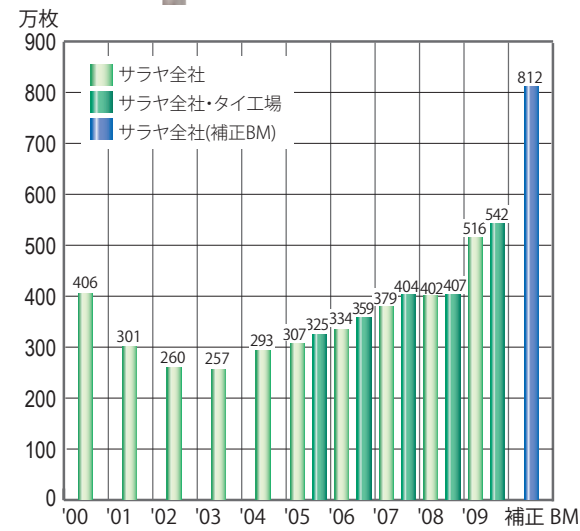
目標と重点課題

	課題検証	自己評価	次の重点的取り組み	2010目標
 電力	① 全社で30%削減（2000年補正BM比）、2009年実績／目標は110%の達成。 ② 個人レベルまで継続した省電力化の取り組み ③ 設備投資を伴う省電力の継続検討 ④ クールビズ、ウォームビズの継続啓発活動	目標達成	① 従来活動の継続 ② 環境影響評価の見直しによる省電力化の検討	対2000年の削減 30% （事業拡大加味）
 燃料	① 全社で30%削減（2000年補正BM比）、2009年実績／目標は126%の達成。 ② 設備投資に伴う省エネルギーの継続検討 ③ 物流部門でモーダルシフト化の推進	目標達成	① 従来活動の継続 ② 営業車両のハイブリッド車の導入実現性の検討 ③ 製造部門の省エネ診断の検討	対2000年の削減 40% （事業拡大加味）
 上水	① 全社で40%削減（2000年補正BM比）、2009年実績／目標は101%の達成。	目標達成	① 従来活動の継続。	対2000年の削減 35% （事業拡大加味）
 紙資源	① 全社対2000年の維持 2009年実績／目標は79%の未達成。	未達成	① 従来活動の継続 ② 文書・記録類の電子ファイリング化の推進	対2000年の削減 35% （事業拡大加味）
 廃棄物	① 廃棄物は全社で20%削減（2000年補正BM比）、2009年実績／目標は98%の未達成。 ② リサイクル率は目標達成。	未達成	① 従来活動の継続。 ② QMS活動と連動した取り組み（品質クレームを起因とした廃棄物の削減） ③ 廃棄物の分別方法の再検討及び従業員の啓発活動の見直し	廃棄物対2000年の削減25% （事業拡大加味） リサイクル率95%
 PRTR対象原料使用回避	① 2009年の新製品は11品目開発され、そのうち3品目はPRTR原料使用の製品を上市した。	未達成	① 2010年の新製品もPRTR原料の使用の回避 ② 既存品（PRTR対象原料を含むもの）58品目についてPRTR対象外原料に代替する検討が必要 ③ 化管法の施行令改正によるPRTR対象原料の把握及び取り組みの見直し	PRTR対象原料の使用の回避（BCL） 全商品対象のマスバランス把握（生産部門）
 事故・緊急事態対応	各事業所で「事故・緊急事態」を再評価し、地震・火災・液漏洩を想定した対応訓練や車両事故削減の取組を実施した。	目標達成	① 各事業所の事故・緊急時の訓練や車両削減の取組を実施した際にレビューを行い、更なる予防処置を講じることが必要 ② さらに各事業所の危険因子の抽出と対策を環境マネジメントシステムに反映させる	年1回以上の防災訓練の実施 事故緊急事態の再検討と対応策の検討
 環境関連法規の順守	環境関連法規の順守評価の仕組みを再構築し運用したが、年1回の外部審査で審査機関から複数の指摘を受けた。	目標達成	① 各事業所と各部門との連携による環境関連法規の順守評価の仕組みの強化 ② 化審法の施行令改正による順守評価の仕組みの確立	順守評価の徹底のための仕組みの再構築
 プラスの環境側面の活動	環境配慮製品の拡販、ペットボトルキャップの収集、地域との環境コミュニケーションの実施等、各所で積極的な活動がみられた。	目標達成	① 「サラヤ全社員」の意識向上と社会貢献活動を積極的に実施できる社内環境整備が必要	実行活動の強化
 生物多様性に関する環境側面の活動			「サラヤ全社員」で生物多様性に関連する企業活動を認知し、「自らできることは何か」を考え、行動に移すことが必要	自部署の業務で、生物多様性に関する環境側面を特定し、環境保全活動を実施する。

2009 年の実績

※ 2008年の売上高が2000年の170%であったので、従来方法では2009年は、2000年の170%を補正BM（ベンチマーク）とするところであるが、新型インフルエンザの流行による製造量の急拡大があり、従来通りの拡大比率では判断できなくなった。工場の稼働状況などを判断して、事業拡大を200%として補正した。
尚、大阪工場にスマイル産業の消費量・発生量が含まれる。全社とは国内の全社であり、海外拠点は含まない。

電力

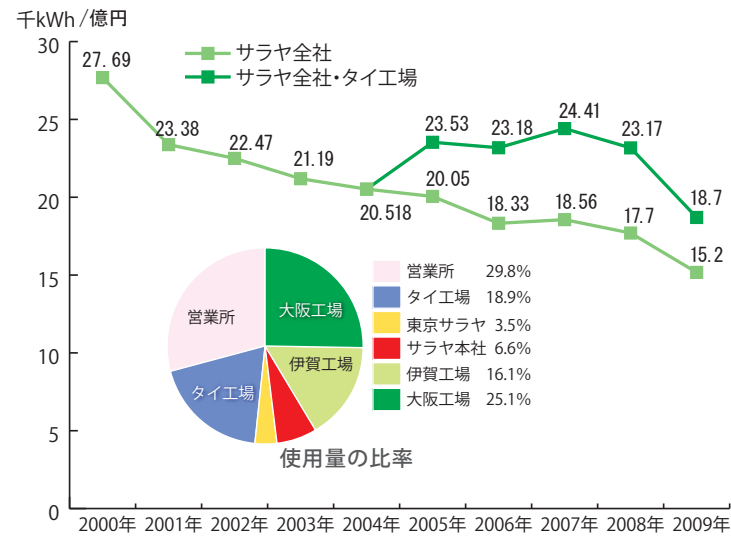


全社国内使用総量の推移

● 電力消費は、円グラフで分かるように製造部門に占める割合が約60%になる。タイ工場稼働以来、一部外注していた商品製造を自社製造に切り替えているので、売上原単位で2004年以降タイ工場も含めた使用量が上昇したが、2008年以降は落ち着いている。2009年は新型インフルエンザの流行で売り上げが急上昇したため原単位は下がった。

クールビズ、ウォームビズ実施状況

	クールビズ	ウォームビズ
開始時期	2009年 6月1日	2009年 12月7日(大雪)
終了時期	2009年 9月30日	2010年 3月21日(春分の日)
室温(目安)	26～28℃	20℃
服 装	社内はノーネクタイ、得意先訪問時は得意先の方針に合わせる	部署によりノーネクタイ、セーター着用、ひざ掛け持参など
勤務時間外	家庭やプライベートでも実践の協力を要請	家庭やプライベートでも実践の協力を要請

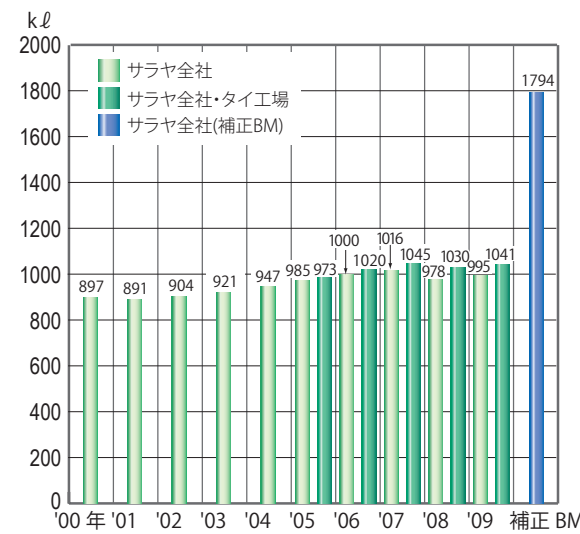


使用量の売上原単位の推移

伊賀工場 太陽光発電システム発電量

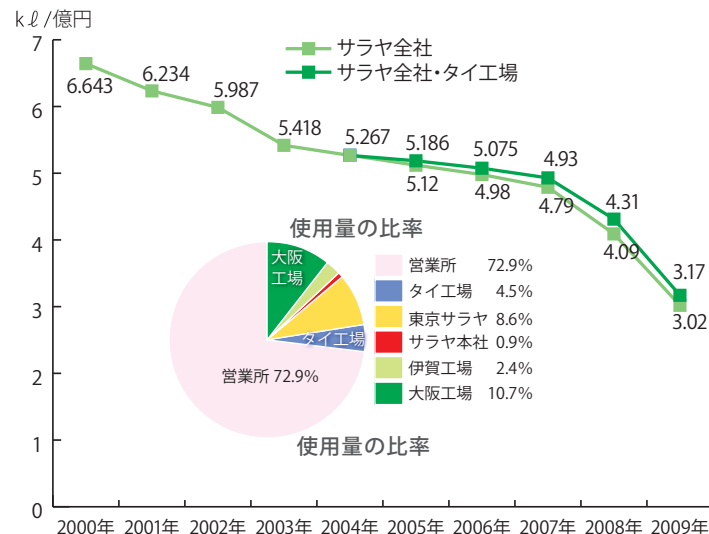
月	傾斜面日射量 kWh/m ²	出力電力量 kWh	平均気温℃
1	73.42	491.43	2.61
2	92.08	621.47	1.71
3	126.87	899.71	7.36
4	130.78	905.00	12.42
5	143.10	976.29	16.90
6	115.10	791.36	20.52
7	169.81	1119.60	26.39
8	140.56	924.25	25.63
9	106.07	683.65	21.20
10	103.20	630.41	16.15
11	85.84	501.02	9.73
12	89.94	500.43	5.55
積算値	1376.77	9,044.62	13.85

燃料



全社使用総量

● 営業車のガソリン消費は、約73%に該当します。また、東京サラヤの消費量8.6%は東京営業所の営業車が含まれます。東京サラヤの本社部門の消費量をサラヤ本社と同じ0.9%としても（実際はこれより下回る）7.7%となり、合計で営業車のガソリン消費が約81%という計算になります。

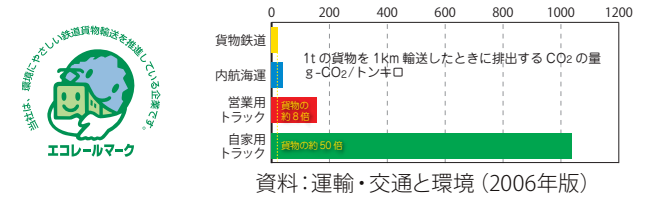


使用量の売上原単位の推移

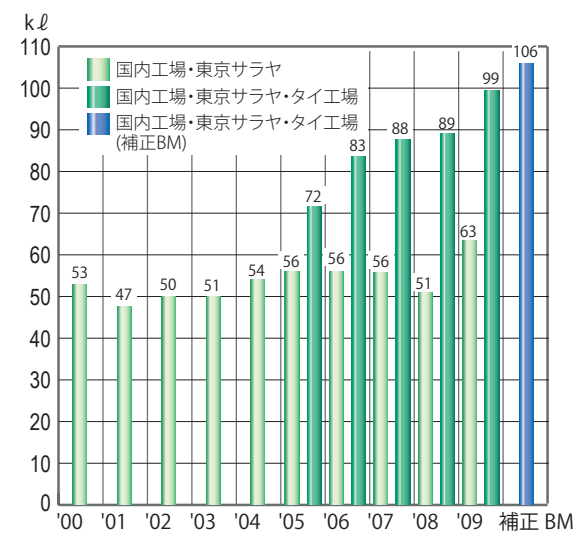
モーダルシフトの推進

サラヤでは、大阪工場から東京物流センターへの商品輸送では100%、伊賀工場から同センターへは、お客様への直送分（約50%）を除くすべての輸送に鉄道を利用しています。2007年に燃料の削減における重点取り組みとして、「モーダルシフトの推進（エコレールマークの取得を目指す）」をあげていましたが、2008年7月18日に、国土交通省と（社）鉄道貨物協会よりエコレールマークの表示を認められる企業としての認定を受けました。

※エコレールマークとは、トラック輸送に比べてCO₂の排出量が1/8に削減できる貨物輸送（国土交通省調べグラフ）を500km以上の陸上輸送に15%以上利用している企業が認定されるものです。

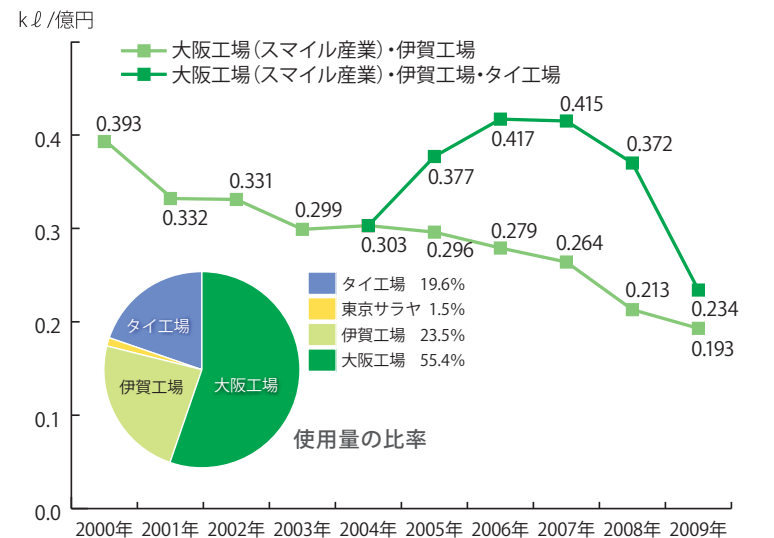


上水



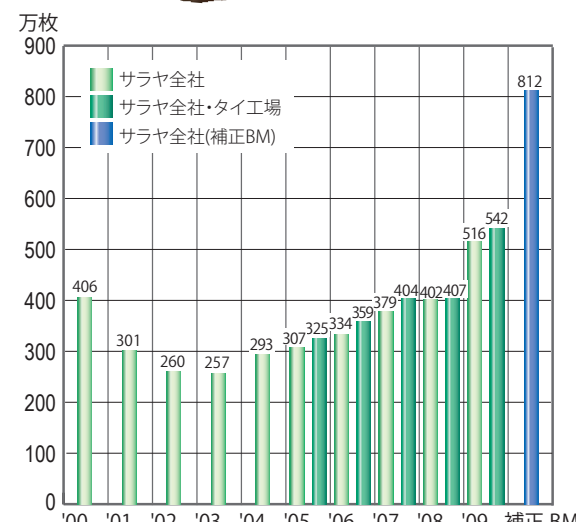
国内工場・東京サラヤ使用総量

● 水使用量が増加したのは、一部商品について外部に委託製造していた洗剤類を2005年から大阪工場とタイ工場に取り込んで自社製造していることが主な原因です。2009年の使用総量の上昇は、新型インフルエンザ流行による生産量拡大の影響です。



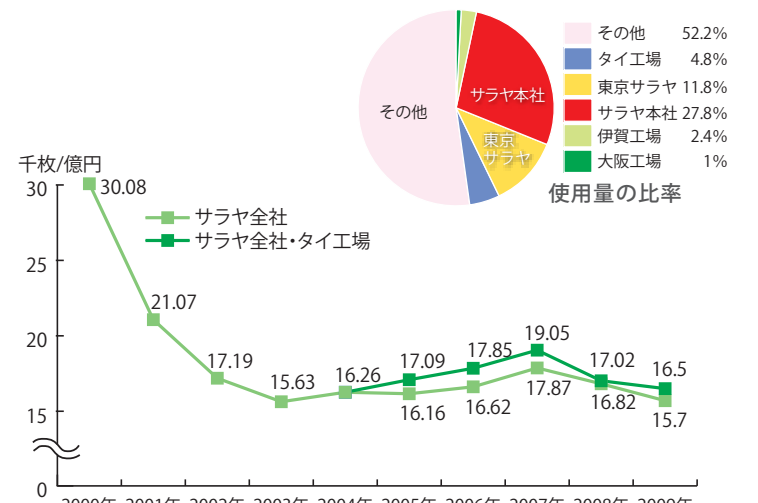
使用量の売上原単位の推移

複写用紙



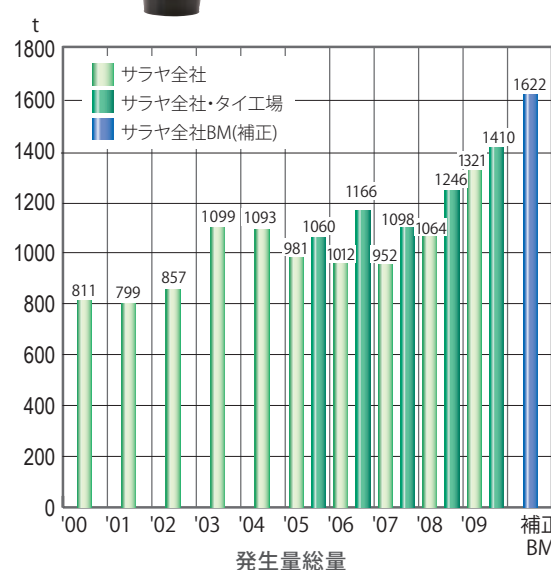
全社国内使用総量

● 複写用紙の使用は、販売促進と事務処理の使用が大半、事務処理は少しずつペーパーレス化が進んでいるが、販売促進についてが今後の課題。WEBやCDRを中心とした電子化を進めることが、目下の課題である。また、EMS、QMSのペーパーレス化を急がなくてはならない。

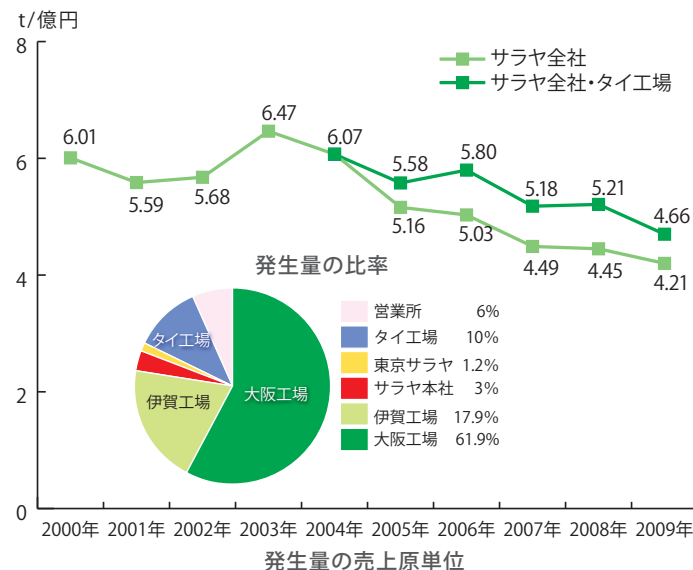


使用量の比率

廃棄物



● 半分以上を占める大阪工場の廃棄物には、他の工場で生産された商品の返品も含まれます。



PRTR 法対象物質

原材料は、可能な限り天然由来を使用し、環境負荷の削減を実践しています。しかしながら、感染予防のための衛生を遂行するために、製品機能に必要な技術上、市場のニーズなどの理由で、PRTR(Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度) 対象

物質が含まれる製品があり、下左表の通り、動態把握しています。しかしながら下右表のように、新たな開発商品には PRTR 対象物質の使用を回避し、代替原料への移行を進めています。

2009 年 PRTR 法対象物質放出量 (kg/年)

政令番号	PRTR対象物質名	産業廃棄物処理※	排水へ	大気へ
1	亜鉛の水溶性化合物	0.4	0	0
16	2-アミノエタノール	1400	17	0.06
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(型)(C=10-14)	1800	23	0
43	エチレングリコール	1.2	0	0
47	エチレンジアミン四酢酸	3000	1.1	0
65	グリオキザール	51	0.3	0
166	N,N-ジメチルドデシルアミン=N-オキシド	490	24	0
307	ポリオキシエチレンアルキル(C12~15) エーテル	2400	7.0	0
環境への放出量合計		9142.6	83.4	0.06

※ 専門業者による産業廃棄物処理

PRTR法対象物質使用回避の状況

	総開発製品数	PRTR対象原料未使用の数	総開発製品数に未使用製品の占める割合
2001年	95	86	90.5%
2002年	80	75	93.8%
2003年	65	62	95.4%
2004年	71	68	95.8%
2005年	66	58	87.9%
2006年	26	23	88.0%
2007年	37	37	100.0%
2008年	26	24	92.3%
2009年	11	8	72%

2009 年度は新型インフルエンザ対応という本業における大きな社会的責任が課せられました。製造部門で最も影響が大きく、伊賀工場の 24 時間稼働など異例の事態となりました。ISO 活動にも大きく影響しました。2009 年の電力、上水、複写用紙及び廃棄物についての実績値は、2008 年度を大きく上回りました。

一方、他の重点課題に関しては、環境マネジメントシステムを活用した積極的な取り組み事例が各部署で見られるようになりました。例えば、商品開発部門では持続可能な原料の導入、つまり RSPO 認証されたパーム油の製造検討、CO₂ 排出量を軽減する包装容

器の開発などです。営業部門及び業務推進本部では、EDI 受注システムや B to B 販売システムなどインターネットを活用して、お客様とのコミュニケーションをより充実させるとともに、お客様満足度の向上と環境負荷の削減を推進するなど、努めております。

これらの良い事例を各部門へ水平展開できるように、環境マネジメントシステムのより深い活用を進めます。そして、温暖化防止のために各部署のエネルギー消費の見直しはもとより、従業員の家庭においても『環境家計簿』導入を推進し、環境マネジメント活動の裾野をプライベートにまで拡げて行きたいと考えています。



サラヤ株式会社 品質保証部 ISO ナレジグループ

横山 聡

2009 年の温室効果ガス排出量とマテリアル・フロー

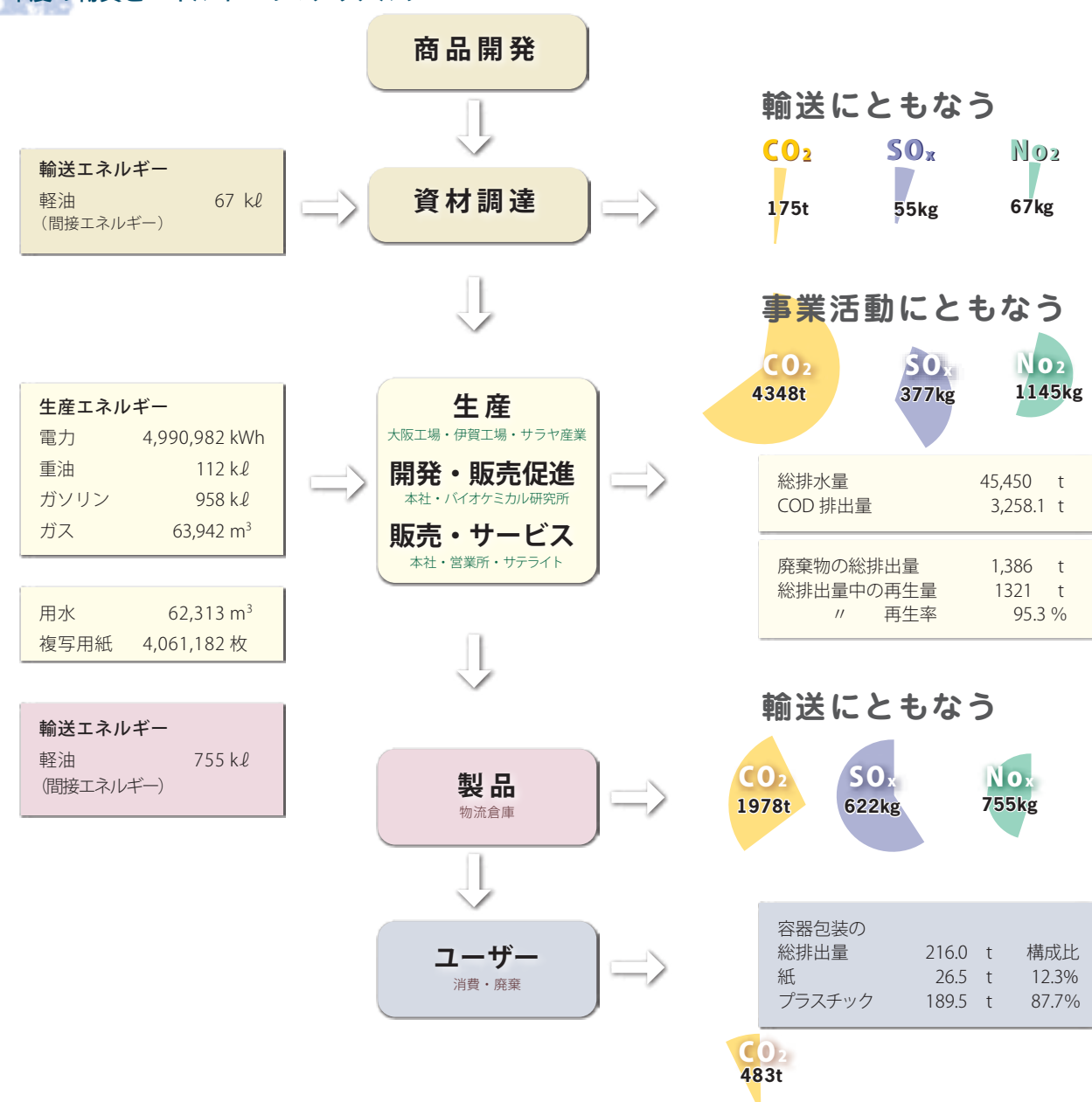
温室効果ガス排出量

2009 年に排出した温室効果ガスを、環境省・経済産業省の『温室効果ガス排出量算定・報告ガイドライン (ver1.2)』をもとに算出しました。なお、パーフルオロカーボン (PFC) と 6 フッ化硫黄 (SF₆) は排出量ゼロです。

2009 年温室効果ガス排出量

		二酸化炭素 CO ₂	メタン CH ₄		一酸化二窒素 N ₂ O	ハイドロフルオロカーボン HFC		温室効果ガス CO ₂ 換算合計
		地球温暖化係数:1	地球温暖化係数:21	CO ₂ 換算	地球温暖化係数:310	CO ₂ 換算	地球温暖化係数:1,300	CO ₂ 換算
直接	2009	2,418t	4.6t	96.6t	230kg	71.3t		2,585.9t
	前年比	+50t	+ 4.6t	+ 96.6t	+ 230kg	+ 71.3t		+ 217.9t
間接	2009	4,398t	3.2t	67.2t	32kg	10.2t	45.45kg	590.9 t
	前年比	+ 843t	- 4.9t	- 102.9t	+ 1kg	+ 0.3t	- 57.55kg	- 74.8t
計	2009	6,816t	7.8t	163.8t	262kg	81.5t	45.45kg	590.9 t
	前年比	+ 893t	- 0.3t	- 6.3t	+ 229kg	+ 71.6t	- 57.55kg	- 74.8t

2009 年度の物質とエネルギーのマテリアルフロー



4. 生物多様性保全への取り組み

サラヤでは 2004 年に原料供給地の生物多様性の保全への取り組みをはじめましたが、以来日本国内はもとより、アジアやヨーロッパを中心にグローバルな取り組みを実践しています。

生物多様性国家戦略意見発表会

サラヤでは、2007 年より環境省の生物多様性国家戦略への意見発表会に参加し、大阪と東京で当社の取り組み事例を発表しています。ここでも、ボルネオの生物多様性保全の必要性について問題定義いたしました。

B&B ビジネスと生物多様性 イニシアティブ

2008 年 5 月にドイツ ボン開催の生物多様性条約第 9 回締約国会議(CBD COP9)において B&B(ビジネスと生物多様性)イニシアティブのリーダーシップ宣言に署名し、右の 3 つの目的を支持し、7 つの活動を開始することを宣言いたしました。これは、現在日本企業 10 社、世界 31 社合計 41 社が署名しています。2009 年には、日本の署名企業 10 社による B&B イニシアティブ ジャパンとしての活動も始まり、当社は事務局の 1 社として活動しています。

JBIB 企業と生物多様性 イニシアティブ

サラヤは、2008 年 4 月より「JBIB 企業と生物多様性イニシアティブ」にも参加しております。JBIB は、生物多様性の保全を目指して積極的に行動する日本の企業が、国際的な視点から生物多様性の保全に関する共同研究を実施し、その成果を元に企業間やステークホルダーとの対話を図ることで、真に生物多様性の保全に貢献する活動を展開していくことを目的としている団体としています。

OUCC2009 オランウータン保全会議

2009 年 10 月 2 日、コタキナバルで開催された "The Orang Utan Conservation Colloquium (OUCC 2009)" に社長の更家悠介が参加し、持続可能なパーム油に関わるビジネスとオランウータンが共存できるよう「緑の回廊計画」の推進を呼びかけました。この会議はパーム油産業側の MPOC(Malaysian Palm Oil Council)などに、本来なら対立する Hutan などの NGO や設立に当社も関わりヤシノミ洗剤の売上 1%で支援している BCT ボルネオ保全トラストなどの NPO がともに参加する会議でした。結論として、キナバタンガン河の下流域をオランウータンとともに保全しつつ、持続可能なパーム油を生産するモデル地域にすることをサバ州に提言しました。

CBD 3rd Business & the 2010 Biodiversity Challenge Conference

2009 年 12 月 1～2 日にインドネシアのジャカルタで "CBD 3rd Business & the 2010 Biodiversity Challenge Conference" が開催されました。これは CBD(生物多様性条約締約国会議)と UNEP(国連環境計画)の主催によるもので、日本の環境省より依頼があり、当社社長の更家悠介が当社のボルネオ サバ州での活動の事例報告と同地域の「緑の回廊計画」の推進を提案しました。

Objectives and Leadership Declaration

Objectives

1. Conservation of the diversity of animal and plant species, ecosystems, and genetic diversity
2. Sustainable use of natural resources
3. Fair distribution of advantages and profits resulting from the use of genetic resources.

Leadership Declaration

1. Analyze corporate activities with regard to their impact on biological diversity.
2. Include the protection of biological diversity within their environmental management system, and develop biodiversity indicators.
3. Appoint a responsible individual within the company to steer all activities in the biodiversity sector and report to the Management Board.
4. Define realistic, measurable objectives that are monitored and adjusted every 2 to 3 years.
5. Publish activities and achievements in the biodiversity sector in the company's annual, environmental, and/or corporate social responsibility report.
6. Inform suppliers about the company's biodiversity objectives and integrate them accordingly.
7. Explore the potential for cooperation with scientific institutions, non-governmental organizations (NGOs) and/or governmental institutions with the aim of deepening dialogue and continuously improve the corporate management system vis-a-vis the biodiversity domain.

www.business-and-biodiversity.de/



2009 年 10 月 2 日オランウータン保全会議で「緑の回廊」の事例報告とその必要性を訴えた。



2009 年 12 月 1 日 CBD 3rd Business & the 2010 Biodiversity Challenge Conference で発表。

SusCon (International Conference on Sustainable Business and Consumption)

から CBD COP10 へ

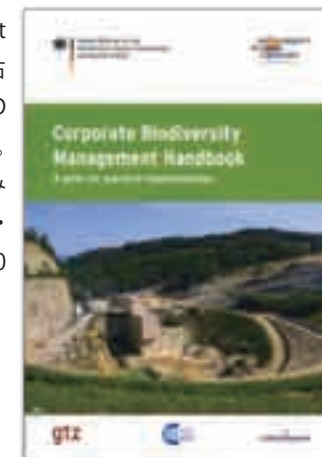
SusCon 持続可能なビジネスと消費のための国際会議

2010 年 6 月 15 から 16 日にドイツのニュルンベルグメッセで SusCon(International Conference on Sustainable Consumption) という国際会議が開催されました。これは、ドイツの環境省 GTZ と B&B イニシアティブなどが共催したもので、生物多様性条約締約国会議事務局長であるアフメド・ジョグラフィ氏やドイツの環境副大臣の Ursula Heinen-Esser 氏、環境省から参与の黒田大三郎氏、霊長類学者でチンパンジーの保護活動家のジェーン・グドール氏が参加・講演しました。この国際会議での、B&B イニシアティブのプレイベントにジョグラフィ議長自らに参加いただき、署名企業参加者に向けてお話しただく機会があり、質疑応答の時間も設けられました。

(www.suscon.net/)

B&B イニシアティブ発行冊子

B&B イニシアティブは、各署名企業の生物多様性への取り組み分野ごとにまとめた『Corporate Biodiversity Management Handbook』(日・仏・独語訳 写真)を発行し、SusCon と CBD COP10 で発表、配布しています。また、各署名企業ごとに取り組みをまとめたファクト・シート(日・仏・独語訳)を発行し、CBD COP10 のサイド・イベントで発表します。



当社サラヤの事例も紹介。内容は、<http://www.business-and-biodiversity.de/jp/homepage.html> をご覧下さい。



左より、Henne 博士、Brandes 氏(独環境省 GTZ)、生物多様性条約締約国会議(CBD)事務局長 Djoghlaef 氏、SusCon 会期中の B&B イニシアティブのプレイベントにて。



SusCon テーマセッション「企業の生物多様性マネジメント」、右から Henne 博士、Wyes 氏(MARS inc.)、更家悠介(サラヤ株式会社社長)、Schaltegger 教授(『Corporate Biodiversity Management Handbook』<左上の写真>の著者)、Endrukaitis 氏(ドイツ環境省 GTZ)

品川環境大賞受賞－東京サラヤ 蝶の道プロジェクト

東京サラヤ株式会社では品川区の「蝶の道プロジェクト」にも取り組んでいます。本社のある品川区は、植物が植えられている土地が 5% に過ぎず、東京 23 区の中でも非常に生物多様性に恵まれない地域だということで、品川区では植物を区内に増やす活動を展開しています。そのひとつに蝶の道推進協議会の「蝶の道プロジェクト」があり、東京サラヤはこのプロジェクトに参加し、同協議会のアドバイスを得て、東京サラヤ本社の社屋の周囲に花壇を新設し、大都市では希少となりつつある蝶や昆虫類を含んだ棲息環境となるよう設計しました。この活動が評価され、2010 年 2 月 14 日、(第 3 回)品川環境大賞を受賞しました。



東京サラヤ本社花壇



東京サラヤ社員



立教大学阿部治研究室見学 2010/7/2

5. グリーン調達

原料調達や備品副資材についてもグリーン調達を進めています。また、リデュースやリサイクルも同時に進めています。

原料調達

RSPO 認証パーム油の使用

CSR 活動としての NPO などの支援やゾウやオランウータンの救出だけでなく、本業としての持続可能性への取り組みが求められています。そのひとつの答えが RSPO 認証パーム油を使用することです。RSPO とは、持続可能なパーム油のための円卓会議の略で、2003 年に WWF の呼びかけによってスタートし、2004 年 4 月に NGO として設立されました。下記の 8 原則とそれについての細かな規定が定められています。サラヤの入会は 2006 年ですが、2010 年春に、栽培から加工までを認証原料だけで行い、すべてトレーサビリティできる原料だけの完全分離方式で製品化されたパームオレインを入手しました。この原料から酵母の醗酵によるソホロリピッドを製造し、配合した「ヤシノミ洗たくパウダー ネオ」(写真)を 2011 年より限定販売します。

今後、在庫などを調整して RSPO 認証パーム油使用のソホロリピッド配合商品に順次切り替えて行くとともに、まだ RSPO から出荷されてはいませんが、RSPO 認証のパーム核油も、いち早く入荷できるよう努力します。RSPO 認証パーム油に原料切り替え後も、引き続き、メーカー出荷額の 1%で従来どおり「緑の回路計画」支援を続けて行きます。



※ RSPO-CSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil-Certified sustainable palm oil)

Principles for Sustainable Palm Oil 持続可能なパーム油の原則

- Principle1. Commitment to transparency
透明性へのコミットメント
- Principle2. Compliance with applicable laws and regulations
適用法令と規則の遵守
- Principle3. Commitment to long-term economic and financial viability
長期的な経済的・財務的な実行可能性へのコミットメント
- Principle4. Use of appropriate best by growers and millers
栽培者及び製造・加工業者によるベスト・プラクティスの活用
- Principle5. Environment responsibility and conservation of natural resources and biodiversity
環境に関する責任と資源及び生物多様性の保全
- Principle6. Responsible considerations of employees and of individuals and communities affected by growers and mills
栽培者や製造・加工工場によって影響を受ける従業員及び個人やコミュニティに関する責任ある配慮
- Principle7. Responsible development of new plantings
新規プランテーションの責任ある開発
- Principle8. Commitment to continuous improvement in key areas of activity
主要な活動分野における継続的な改善へのコミットメント

FSC 森林認証紙の使用

再生紙配合率の偽装問題が話題になったことや、中国での紙の需要の急増により古紙の入手が困難になり、再生紙の供給が不足するなどの背景から、当社でも販促物の印刷用紙の使用に関して、従来の再生紙 100%の印刷用紙使用の原則の見直しをしました。発注する印刷物においては、FSC 認証紙を可能な限り使用することを当社 EMS に登録、2007 年 11 月より実施しています。

FSC 森林認証には、次の 10 の原則と基準(国際基準)が定められています。この 10 原則とそれについての基準が細かく規定されています。これは、森林関連法や国際条約の遵守や生物多様性保護、先住民の生活との協調、農薬や肥料の細かな使用についての取り決め、絶滅危惧種への保護の措置、植林をはじめとする持続可能な森林の管理、天然林の保護などが内容となっています。

10 原則と基準を管理者が遵守することを立証した FSC 認証森林から伐採した木材チップを原料に、すべての工程を FSC が認証した工場で製造した印刷物に付けることができるのが FSC ロゴマークです。

FSC 認証 10 原則

1. 法律と FSC の原則の遵守
2. 保有権、使用権および責務
3. 先住民の権利
4. 地域社会との関係と労働者の権利
5. 森林のもたらす便益
6. 環境への影響
7. 管理計画
8. モニタリングと評価
9. 保護価値の高い森林の保存
10. 植林

「間伐に寄与する紙」の使用

この環境レポートには、日本国内の間伐材を使用した紙を使用しています。これは、環境 NPO オフィス町内会が運営する「森の町内会」の活動に 1kg につき 15 円を支援金として上乗せして、「間伐に寄与する紙」を購入するものです。

間伐は、森林の機能低下を防ぎ、CO₂ の吸収力を維持し、また生物多様性の保全にも役立ちます。輸入木材チップより輸送にかかる CO₂ も削減できます。間伐は、岡山県西栗倉村の森林で行われたもので、政府からの補助金を足しても不足する資金を支援します。

販促物のリデュース

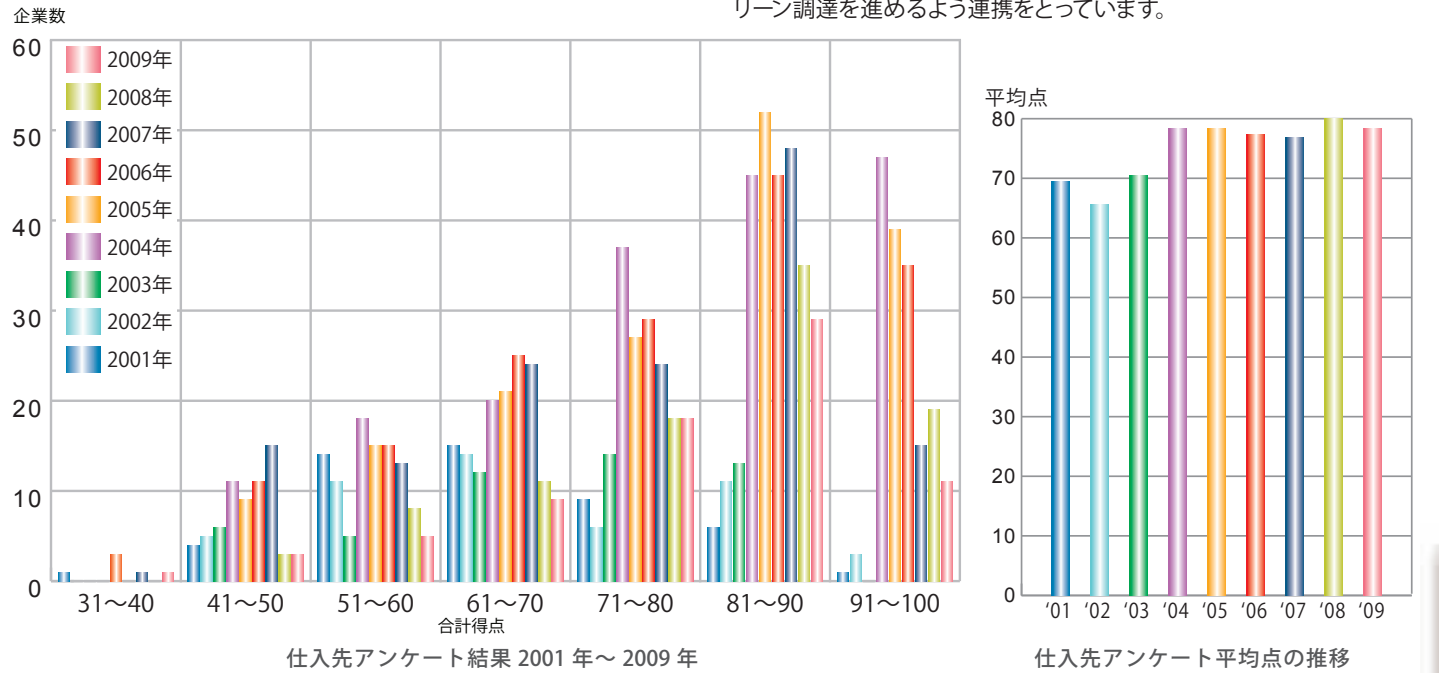
販売促進のためのパンフレットやカタログや環境レポートなどに使用する印刷用紙は FSC 認証紙を使用するだけでなく、使用する絶対量を減らすために、紙厚の薄いものを使用しています。

印刷用紙は、裏表で合計 16 ページを印刷できる全版サイズ 1000 枚の重さを基準にしています。サラヤでは、チラシ・カタログの用紙(表紙は除く)を以前は 110kg を使用していましたが、2008 年より 90kg

の紙厚の用紙を使用することを進めています。これによって 18%以上の紙資源のリデュースができます。今後は、紙だけに頼らず、WEB や CDR、電子書籍などの利用をさらに進めて参ります。

仕入先への環境アンケート

取引先企業への環境アンケートは、例年通り実施しました。商品原料については、開発部門の品質評価にこのアンケート結果を加えたグリーン調達を進めるよう連携をとっています。



備品・副資材

制服

女子制服についてはエコマーク商品を採用しています。女子制服は、再生ペットボトルを再利用したポリエステルを 55%以上混紡した生地を使用したものです。作業服は、再生ペットボトルを再利用したポリエステル 15%と通常のポリエステル 50%、綿 35%混紡の生地を使用したものです。

使用後の制服・作業服の廃棄については、本社で一括回収したものを納入会社の協力の上、サーマルリサイクルや自動車の内装材や吸音材として再利用されています。資源の有効活用を推進しています。

トナーカートリッジの再使用

使用済トナーカートリッジにトナーを充填し、再使用する事業をグループ会社で運営しています。全社のプリンターやコピー機の使用済カートリッジは可能な限りトナーを再充填し、再使用しています。

グリーン購入ネットワークに加盟

当社は、1996 年より GPN (グリーン購入ネットワーク) に加盟しています。右表の什器備品をはじめ、電気製品などについても、できる限り GPN のグリーン購入ガイドラインに沿った購入をするよう取り組んでいます。



什器備品

本社域では総務部門が購入管理している什器備品は、新規購入品についてはすべてグリーンマーク商品を導入しています。文具消耗品についてもグリーン購入を勧めており、全品目の 70%以上がグリーンマーク商品もしくはエコマーク商品となっています。

グリーン購入の実施状況

分類	対象品	グリーン調達の基準	実施状況	
			実施済	実施予定
文 具	複写用紙	再生紙	○	
	シャープペンシル	再生プラスチック	○	
	ノート類	再生紙	○	
	ファイル類	再生紙	○	
	スティックのり	再生プラスチック	○	
	封筒類	再生紙	×	
紙 製 品	名 刺	再生紙	○	
	トイレットペーパー	再生紙	○	
	紙コップ	再生紙	○	
	ペーパータオル	再生紙	○	
制 服 類	作業服	再生 PET 繊維	○	
	制服 (女子夏・冬)	再生 PET 繊維	○	
	帽 子	再生素材	○	
そ の 他	ヘルメット	再生素材		○
	トナーカートリッジ	再生品	○	
	机・イス	G マーク適応品	○	

6. 自然派のものづくり

創業者は、熊野の林業を営む生家で、豊かな自然に囲まれて少年時代を過ごしました。その自然観・生活感をバック・ボーンに商品開発を続けてきました。それは今も、自然派のサラヤの企業風土として受け継がれています。

自然派の原点

エコロジーなどという言葉さえまだ誰も知らなかった1952年の創業時、ココヤシ(ココナッツ)油から、手肌にやさしく、衛生に役立つ石けん液を開発しました。人も本来自然の一部であるので、妥協せず品質を追究して行けば、それは自然と調和するものでもありました。それが、創業以来半世紀の間サラヤで貫かれている商品コンセプトとなりました。

熊野の清流から

創業者、更家章太は三重県熊野に生まれ育ちました。熊野は紀伊半島の南端に位置し、黒潮の影響を受け温暖で降雨量が多く、山々に生育する木々が鬱蒼とした森をつくり、多様で豊かな生命が育まれています。このことは、博物学・民俗学の巨星とも言われている南方熊楠の研究フィールドになったことでも明らかです。また、イザナギ、イザナミの神代の伝統や徐福伝説、神武東征、蟻の熊野詣などなど、歴史と自然に綾なされた、日本人の心の原郷でもあります。

創業者は熊野の奥深い地に代々林業を営む生家で、漆黒の夜空に星を仰ぎ、河鹿や小鳥の声を聴き、澄みきった川で鰻や鮎や川エビを捕り、成長しました。文字通り五官を通して自然の恵みに育まれました。

林業を継ぐことはなかったのですが、その自然観・生活感を失わずに、起業後もサラヤの創業の原点として、環境保全や自然との調和の大切さを考え、商品開発を続けています。それは、今尚「自然派のサラヤ」として受け継がれています。

自然派のサラヤのロングラン商品

衛生的なしっかりした手洗いができ、手肌にやさしい石鹸液は、便利な石鹸液容器とともに、かつての基幹産業であった紡績工場、そして鉄鋼などの重厚長大産業工場の手洗いや食品衛生へと拡がってゆきました(P5参照)。これは「シャボネット石鹸液」として58年後の今も公共施設の手洗いやスーパーのバックヤードなど全国でご愛用いただいています。

1959年頃より官公庁や学校の手洗いやへと普及し、さらに給食の食品衛生へと拡がりました。食品衛生の手洗いや、同じくヤシ油からつくった食器洗い用洗剤、ヤシノミ洗剤(サラヤニューSS<1971年>1979年にリニューアル)を発売いたしました。業務用ヤシノミ洗剤から1983年にご家庭用に発売したヤシノミ洗剤は2010年の現在もご愛用いただいています。

「緑の回廊」計画を支援

ボルネオはあなたが守るキャンペーン

2004年8月放送「素敵な宇宙船地球号」の「ボルネオ島 子ゾウの涙〜“地球にやさしい…”の落とし穴〜」という番組の中で当社社長がボルネオゾウの窮状について「どう思われますか?」というインタビューを受けました。「ゾウさんにこんなに迷惑をかけているとは知りませんでした。」と答えて、その後すぐに活動がはじまりました。

同年8月にRSPO(Roundtable on Sustainable Palm Oil 持続可能なパーム油のための円卓会議)が設立され、12月に日本籍の企業としては最初に入会しました。翌年2005年12月のRSPO総会で社長の更家はボルネオ サバ州で起こっていることと「緑の回廊計画」を発表しました。その後の経過と2009年の活動はP24〜29に記載していますが、どうすれば持続可能な生産や消費が可能になるのか、当社のひとつの大きな課題となりました。

ボルネオ サバ州 キナバタンガン流域の熱帯雨林保全と野生生物の救出に取り組むために、現地にBCTボルネオ保全トラストを設立するために協力しました。2007年5月よりヤシノミ洗剤シリーズ商品のメーカー出荷額の1%をBCTボルネオ保全トラストに提供し、「緑の回廊計画」を支援する長期のキャンペーンを開始しました。続いて対象商品をご家庭用のヤシノミ洗剤シリーズから業務用商品にまで拡大し、現在に至っています。



“ボルネオはあなたが守るキャンペーン”対象商品の一部



商品開発

衛生を遂行するためのユニバーサル デザイン

食品製造や医療の現場で衛生を遂行するためには、使いやすさ、わかりやすさは不可欠な要素です。サラヤでは創業以来、まず手洗いにおいて、このテーマに取り組んできました。固形石鹸は工場などの使用では交差汚染の心配があることから液体石鹸に、これを衛生的に適量を取り出すことができる石鹸液容器の開発が衛生遂行のためのユニバーサル・デザインのスタートでした。

1988年には、食品衛生用の手洗い石けん液や各種洗浄剤、消毒剤などのラベルを用途別に色分けし、誤使用の予防や食品衛生マニュアルを明瞭かつ簡単にするカラー・コーディネート・システムの商品シリーズを発売しています。これは、手洗い石けん液やヤシノミ洗剤などのハードと衛生マニュアルなどのソフトの両面から食品衛生をサポートする商品です。



左写真のボトルラベルのカラーと右写真マニュアル表の3列目洗剤名の背景のカラーが同じ、それぞれイラストで分りやすく説明されている。



厨房用 600ml スクイズボトル

持ちやすい形状・サイズで従事者が適正使用できるようにボトルを指で押さえるところにガイドとなるリップを入れ、さらに希釈ミス防止のため目盛の文字サイズを大きくした。



適切な手洗いのナビゲーション・システム(子供用)

The Principles of Universal Design

ユニバーサルデザインの7つの原則

1	公平な利用への配慮	5	事故の防止と誤作動への受容
2	使用における柔軟性の確保	6	身体的負担の軽減
3	簡単で明快な使用法の追求	7	使いやすい使用空間(大きさ・広さ)と条件の確保
4	あらゆる感覚による情報への配慮		

サラヤ商品のエコロジーと社会貢献の関係

高 生 分 解 性									
植 物 原 料								工 業 原 料	
	ボルネオはあなたが守るキャンペーン商品 緑の回廊計画に 1% (メーカー出荷額) を寄付					100 万人の手洗いプロジェクト 関連商品		過酢酸製剤	
	天然界面活性剤ソホロリビッド					石 鹼	醗酵アルコール		
	RSPO 認証パーム核油		RSPO 認証パーム油			手洗い石鹼液	手指消毒		
	今後使用予定		使用	今後使用予定					
	ヤシノミ洗剤シリーズ					シャボネット	ハンドジェル		
ご家庭用		その他 ハイパワー、 野菜洗い、 ギフト用商品 など							
			2010 年秋以降 特別販売						
業務用		その他業務用 ヤシノミ洗剤 200kg、20kg など			ソホロン	シャボネット	アルベット		
									
医療施設用					アセザイム	シャボネット F	ヒビスコール液 A	アセサイド	
									

バイオサーファクタント (ソホロリピッド) と RSPO 認証パーム油



ソホロリピッドとは

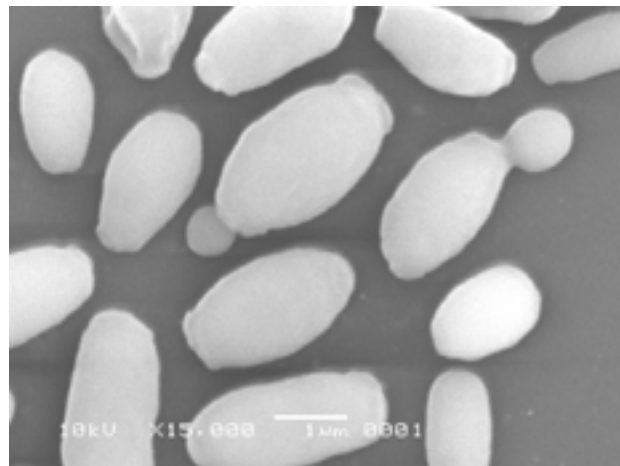
最近、環境用語の中で市民権を得てきた「バイオサーファクタント（天然界面活性剤）」の大量生産の方法を共同開発し、日本で最初に洗剤への利用に成功しました。微生物（天然酵母）が、油と糖を栄養に、発酵することによって生み出すハイパワーの天然洗浄成分がソホロリピッドです。このソホロリピッドが汚れをキレイに落とします。わずかな配合量で高い洗浄力を発揮し、排水後は微生物によって速やかに分解されます。（グラフ 1）高生分解度の上、微量で洗浄できるので、さらに環境負荷が小さくなります。

ソホロリピッドはカーボンフットプリントが小さい

植物油と糖質から生成され、再生可能（カーボンニュートラル）原料である上、醗酵は常温・常圧で行われるので石鹼・洗剤より低エネルギーで製造できます。さらに特筆したいのは、少量ですぐれた界面活性を発揮するので（つまり少量でたくさん洗えるので）製造量・使用量ともに少なくすみ、ライフサイクル全体で CO₂ の発生を抑制できることです。

ソホロリピッドを RSPO 認証パーム油から製造

従来のソホロリピッドは大豆油などから得られる脂肪酸を原料に醗酵によって生成していましたが、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）が認証するパーム油と糖類を酵母によって醗酵させる製造法を開発しました。経済産業省より「ものづくり補助金（試作開発支援事業）」を受けており、エコロジカル・フットプリントが極めて小さい理想的な環境対応型商品として、行政からも大きな期待が寄せられています。



写真の酵母が醗酵し、バイオサーファクタントが生産される。これがソホロリピッドである。比較的、大量に生産するバイオサーファクタントなので、多くの研究報告があるが、洗浄剤として、実用化された例はなかった。

ソホロリピッドの色々な特長

ソホロリピッドには低環境負荷だけではなく、以下の特長があります。

1. 低起泡性（泡立ちにくい）

界面活性剤とは本来泡立ちが良いものである。しかし、洗濯や食器洗浄機用の洗剤は、洗濯機から泡が溢れ出したり、食器洗浄機の排水ポンプに泡が詰まって故障の原因になることがあり、低起泡性であることが求められる。ソホロリピッドは本来低起泡性であるので、消泡剤などの化学物質添加の必要がない。

2. 極めて高い安全性

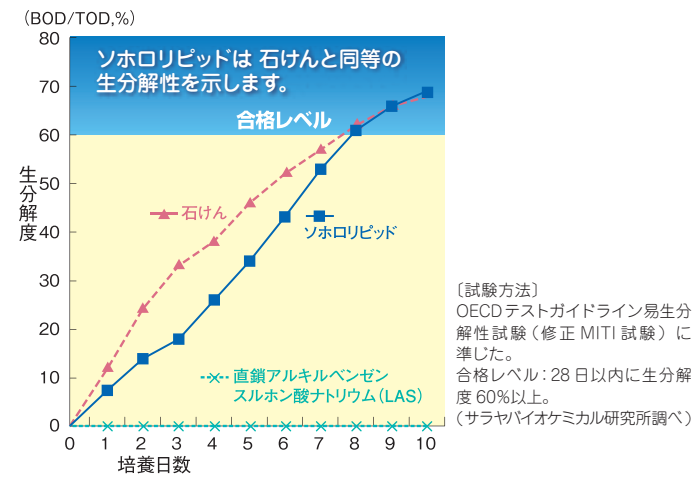
食品乳化剤として用いられているショ糖脂肪酸エステルより、ソホロリピッドが細胞に対する安全性が高い。ショ糖脂肪酸エステルとはシュガーエステルとも呼ばれ、菓子類から麺類まで広く食品に乳化剤として添加されている。また、化粧品レベルの安全性もクリアしている。

3. 極めて高い洗浄力

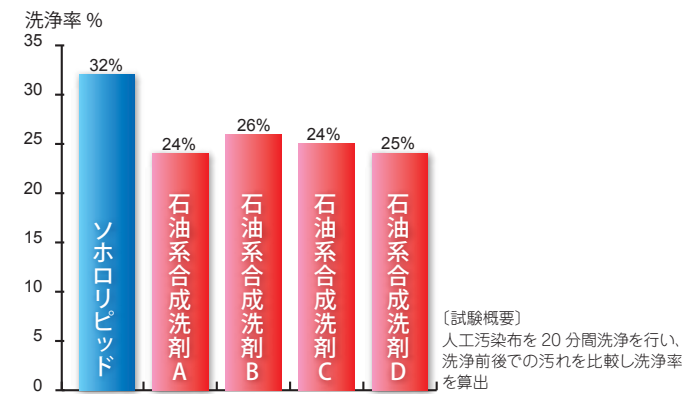
従来の他社製品の洗濯用や食洗機用の洗剤に配合されている低起泡性の石油系の界面活性剤と比較しても、すぐれた洗浄力がある。（グラフ 2）

4. 高いすすぎ性

ソホロリピッドはそれ自体のすすぎ性が高い上、他の界面活性剤に混ぜることで、全体のすすぎ性を高くすることができる。（グラフ 3）



グラフ 1. ソホロリピッドの生分解性



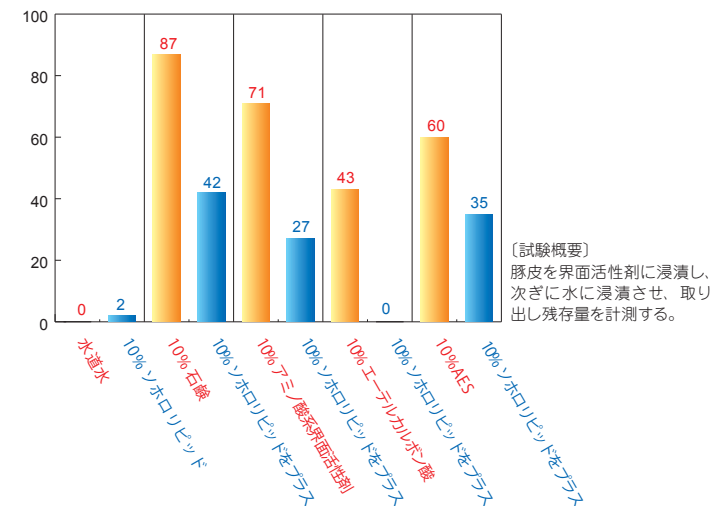
グラフ 2. ソホロリピッドの洗浄力
石油系の合成界面活性剤（低起泡性活性剤）と同等以上

動物試験について

当社の開発商品はご家庭用から業務用まで、石けん・洗剤を中心に医薬品から機能性食品まで、幅広く多岐にわたっています。ヤシノミ洗剤をはじめとするご家庭用の洗剤やシャンプーなどについては、基本的に培養細胞などを用いた代替法により、製品の安全性・有効性評価を行っています。

医薬品については、医薬品申請についての行政側から提出要請がある資料作成に際して、社外の機関に委託して動物試験結果を得ており、当社研究所では実施していません。

特定保健用食品をはじめとする機能性食品については、安全性の



グラフ 3. ソホロリピッドのすすぎ性比較



確保のため動物試験は避けられず、必須のプロセスです。しかしながら、現在では機能性食品開発の有効性や作用メカニズムの初期検討は、各種の培養細胞などを用いての代替試験法も確立しているので、当社研究所ではこれを実施しています。安全性確保のための動物試験は、代替法では不可能な試験に限って実施（外部委託）しています。

また、基礎研究においても複数の大学・大学院と産学共同で実施していますが、ここでも代替法では不可能な試験に限って各大学の研究機関で行っています。

サラヤ バイオケミカル研究所での 3R の実施状況

商品分野	Replacement (動物を用いない代替試験法の活用)	Reduction (使用する動物数を必要最小限にすること)	Refinement (動物に無用の苦痛を与えないようにすること)
洗浄剤・消毒剤	基本的に培養細胞などを用いた代替法により、製品の安全性・有効性評価を実施	動物試験は実施せず	
医薬品	可能な部分を代替法で実施	社外に委託 (委託機関で実施)	社外に委託 (委託機関で実施)
機能性食品	基本的に培養細胞などを用いた代替法により、製品の安全性・有効性評価を実施	社外に委託 (委託機関で実施)	社外に委託 (委託機関で実施)
基礎研究	大学・大学院と産学共同で、基本的に培養細胞などを用いた代替法により、試験を実施	産学共同 (大学・大学院で実施)	産学共同 (大学・大学院で実施)

7. 新事業

オフィスやご家庭を、より持続可能に変える新しい技術があります。手軽なものは照明の省エネ化、大掛かりなものは改築や太陽光発電装置までサラヤがご提案いたします。水処理やトナー・カートリッジのリサイクルも手がけています。

低炭素化

照明設備

オフィスや工場・倉庫の照明を、LED 電球、無電極照明などに替えることで省エネルギーはもとより、超寿命で交換の手間が省ける、低発熱、など様々なメリットがあります。

LED 照明

- 消費電力は 白熱灯の約 1/10
- 寿命は 蛍光灯の約 5 倍
- 交換頻度と廃棄物量は 蛍光灯の約 1/5
- 紫外線をほとんど含まないから 虫が集まらない
展示物など劣化しにくい



無電極照明

- 消費電力は 白熱灯の約 1/2
- 低発熱 80～90℃
- 寿命は 16年間取替えなし
(1日10時間点灯時)
- 少ない水銀含有量 水銀灯に比べて約 1/5
寿命が 5 倍、廃棄量が 1/5 なので水銀量 1/25



太陽光発電

メンテナンスが比較的に簡単で、システムの寿命も長いのが特徴です。

単結晶シリコン太陽電池

単独での変換効率は、15～19%と市販品では最高です。



多結晶シリコン太陽電池

変換効率は 13～16%ですが、耐久性とコストパフォーマンスにすぐれています。



薄膜シリコン太陽電池

軽量で曲面にも使用できるので、屋根以外にも様々な応用できます。



サラヤグループ会社がお手伝いいたします



エコ建築・エコリフォーム事業
省エネルギー事業、排水処理事業
<http://www.saraya-sed.com/>



(株)関西再資源ネットワーク
廃棄物に関するすべてのマネジメントを支援
<http://ksn.ne.jp/>



トナーリサイクル事業、無電極照明
LED 照明等エコ照明のご提供
<http://www.o-japan.jp/>



水処理施設をトータルにご提案
<http://www.saraya-aqua.com/>

水処理

水処理のための薬剤や装置

納豆のネバネバ成分で水をキレイにする多機能高分子凝集剤 PG α 21Ca や水処理装置、排水中の油分などをバイオで分解して浄化するシステムなど取り揃え、より低環境負荷の水質浄化をサポートいたします。『日本の水をもっときれいに』するため、ご提案しています。

水処理薬剤

「多機能高分子凝集剤 PG α 21Ca」(右写真)や「粉末無機系凝集剤 SED シリーズ」など排水に応じた薬剤を選定し、環境にやさしい水処理をサポートいたします。



水処理装置

水処理薬剤を自動供給するものや取水～攪拌～凝集沈殿～ろ過の工程を全自動で処理するもの、小型装置、大型排水処理設備まで、お客様の施設の状況に応じてご提案いたします。



グリストラップ プロバイオシステム

月 1 回の薬剤の補充とエアレーションによる相乗効果で厨房からの廃水中の油脂分を分解し、水質浄化、害虫の抑制に貢献します。(写真システム導入前・後)



持続可能な建築にリフォーム

オフィス、工場、住宅のリフォーム

太陽光発電パネルの設置、バリアフリー、雨水リサイクル、耐震などに対応したリフォームや建替えなどのお手伝いをいたします。また、「高気密化」「壁面緑化」で省エネルギーを、内装に木材や珪藻土を効果的に使って快適さをもたらすリフォームを完成します。

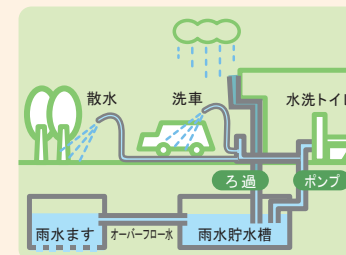
耐震リフォーム

地震のときの崩壊を防ぐ耐震性の向上や被害を小さくする補強をします。



雨水リサイクル

水不足の非常時にも役立つ地下水タンクの水は、植栽の散水、洗車、トイレの水洗などに利用できます。



バリアフリー・リフォーム

安全で働きやすいオフィスに。バリアフリーとユニバーサル・デザインを合わせた建築をご提案します。



トナー・カートリッジのリサイクル

プリンタのトナー・カートリッジの再充填

レーザー・プリンタや輪転機、インクジェットプリンタのトナーやインクをカートリッジに再充填し、リサイクルするシステムです。現在、日本で月間数百万個に及ぶと考えられている使用済みカートリッジですが、これらを回収し有効活用することで、コスト削減と廃棄物削減の双方に貢献できます。

リサイクル トナー・カートリッジ

回収したカートリッジは工場では分解、修理、充填、検品を経て再利用されます。



8. 原料供給地の環境問題

サラヤの石鹼・洗剤の主要原料のひとつはパーム核油から得られます。その原料作物はアブラヤシで、マレーシア、ボルネオ島北部で生産されています。

サバ州と私たちの生活の関係

パーム油とパーム核油の生産とその用途

パーム油の世界の年間生産量は 4,526 万 t (2009 年度 Oil World Annual 2010)、そのうち日本のパーム油輸入量は 55 万 t (2009 年度、Oil World Annual 2010) そのほとんど 53 万 t (96%) をマレーシアから輸入しています。

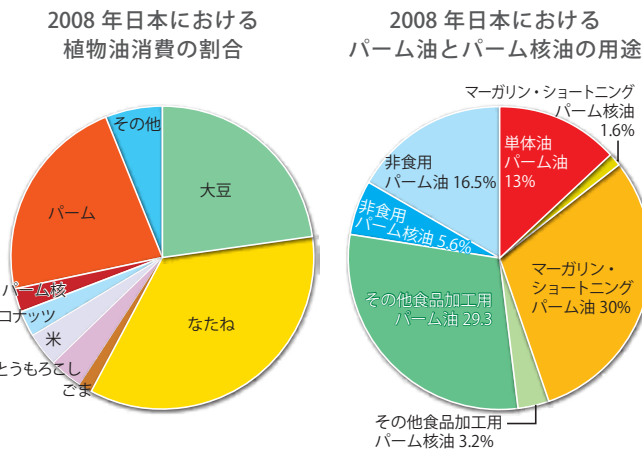
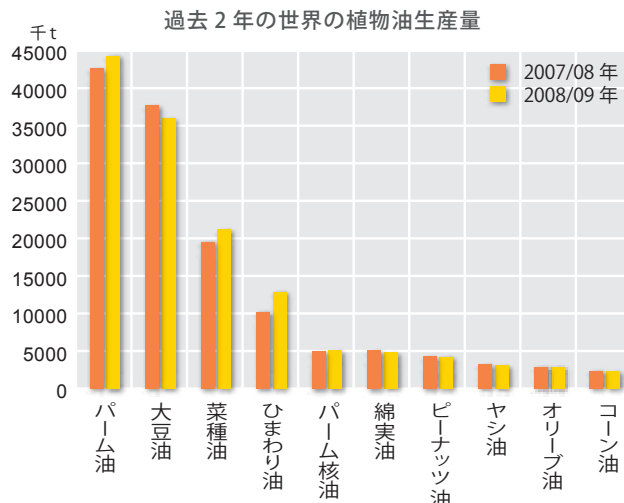
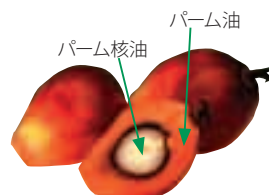
どのように使われているかを農林水産省の平成 20 年のデータからみると、使用されるマーガリンやショートニングに 19 万 7 千 t (34%)、その他食品加工用に 19 万 t、単体油 8 万 7 千 t、食用が合計 47 万 3 千 t (82%)、石鹼・洗剤などの非食用が 10 万 7 千 t (18%) となります。パーム核油は 6 万 7 千 t のうち 3 万 6 千 t (54%) が非食用で消費されています。

単体油はインスタント麺、ファストフードなどの揚げ油やレトルト食品、冷凍食品、カレールーなどの調味料の製造に、マーガリンはトースト用以外に製パンなどに、ショートニングはクッキー、ケーキなどの製菓に、その他食品加工用は例えばチョコレートに使われる代替ココアバター、コーヒーフレッシュ、ホイップクリーム、ラクトアイスなどに使われています。このようにスーパーやコンビニに並んでいるほとんどの加工食品に使われていると言っても良いほどです。ヤシノミ洗剤などは、非食用パーム核油の 5.6% の中に入りますが、その大半が脂肪酸とグリセリンに分解され、化粧品、化学製品(繊維やプラスチック、クッション剤)などに加工されるそうです。

パーム油がこれほど利用されるのは

アブラヤシの果肉部分を搾って精製したものがパーム油、種子から搾油し精製したものがパーム核油です。アブラヤシは熱帯の強い日差しを浴びて育成し、果実は一年中収穫可能で、安定した収穫が得られ、精製したパーム油は酸化しにくく、ビタミン A がニンジンの 10 倍以上含まれているなど栄養的にもすぐれた植物油です。

2009 年の 1 ha 当りのパーム油の年間生産量は、約 3.93t (Oil World Annual 2010) と 2007 年の 3.74 から少し上昇していて、大豆の 10 倍以上の収穫率で、安価となります。参考までに 2010 年の 7 月 23 日の相場で計算しますと、千リットル (MT) の価格が大豆 987 ドル、パーム油 847.5 ドルとなり 1 割以上安価です。安価であるということがこれほどまでに多用される最大の要因です。

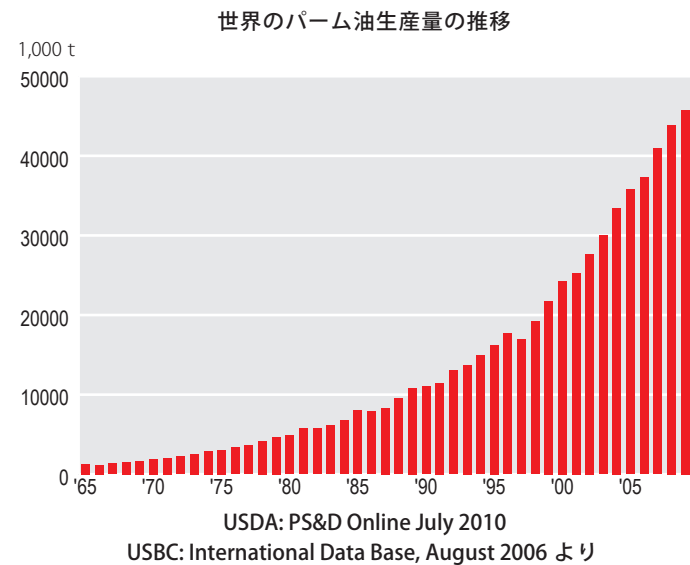


アブラヤシの果房

日本とアジアの熱帯雨林

アブラヤシが植えられる前に熱帯雨林が伐採されます。そもそも、このマレーシアをはじめとするアジアの熱帯雨林の減少は、1960 年代の木材輸入自由化にはじまります。この頃からバブル崩壊までの日本は、コンクリートを固める枠として利用する南洋材をフィリピンからマレーシア半島までの森林から消費してきました。それは今やボルネオ島にまで及んでいます。私たちが居るオフィスや集合住宅なども、ボルネオの熱帯雨林の消滅と無関係ではなかったのです。しかし、伐採地を放置すれば数十年でもとの熱帯雨林にもどるのですが、プランテーションとして開発され続けてきました。一度農地に開墾されたり、森林火災に遭った土地は、運良く土壌の流出を免れたとしても、ツル植物や雑草がはびこり、熱帯雨林が自然に復元することはないのです。

私たち一人ができることは微力ですが、食品を無駄にせず、紙のリサイクルなど紙資源を大切に使い、住宅や家具をリフォームして長く使い続けることなど、できることは多くあります。結局は、私たちの消費行動やライフスタイルが世界を変えるのです。



最近まで増加の一途ですが、今をターニングポイントに減少に転じさせることができるかどうかは、私たちの消費行動にかかっています。

原料供給地の環境保全への取り組みの経緯

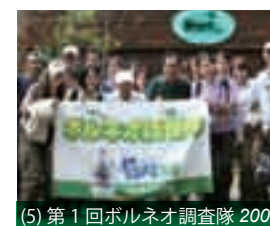
	2004	4/8	RSPO が NPO として正式にスタートする
		7/13	「素敵な宇宙船地球号」番組中のインタビューを受け、ボルネオの現状を知る
		12/14	サラヤが RSPO に加盟する
	2005	1/	マレーシア クアラルンプールにおける RSPO 総会後のセミナーで報告
		1/	サバ州野生生物局にボルネオゾウ保護活動用車両を贈呈、当社研究調査員も活動に参加
		11/23	RSPO 第 2 回総会でボルネオ保全基金設立構想の決議文を提出
	2006	2/14	BBEC(ボルネオ生物多様性保全・生態系保全プログラム)で「緑の回廊」案を発表
		2/16	サバ州司法長官を招き、サバ州の熱帯雨林とプランテーションを上空から視察する (3)
		9/12	BCT ボルネオ保全トラストが設立される
	2007	2/20	サラヤ従業員のボルネオ研修開始
		5/	ヤシノミ洗剤シリーズ商品の売上 1% で「緑の回廊計画」を支援する活動を開始 (4)
		9/21 ~	消費者代表の「ボルネオ調査隊」を公募し、8 名をボルネオ研修ツアーに派遣 (5)
		10/5 ~	サラヤの支援でボルネオゾウの追跡チームを派遣、7 頭の傷ついた子ゾウを確認、1 頭治療後リリース、孤立したオランウータン母子を保護区へリリース。
		10/10	企業フォーラム「責任ある原材料調達をどう実現するか〜パーム油から学ぶ CSR」、公開シンポジウム「生命輝くボルネオの森へ保全にかかわる人と企業」を協賛 (6)
	2008	3/14	BCT ボルネオ保全トラストが最初の保護地を確保
		5/	BCT ジャパンとしての活動が開始、7 月 NPO 法人申請、12 月 NPO 法人認証
	2009	2/17	シンポジウム「生物多様性と企業の役割〜パーム油の現場から」を共催
		3/	プランテーションに入り込んだゾウ 2 頭を救出、保護区へリリース (7)
		10/2	オランウータン保全会議で更家悠介が「緑の回廊」保全の必要性を訴えた (8)
		11/3	更家悠介が RSPO 第 7 回総会で当社事例報告、認証ガイドラインに緑の回廊計画を提唱
	2010	5/13	BCT の理事改選、更家悠介は引き続き理事就任 (9)
		10/	サラヤ生物多様性条約第 10 回締約国会議 生物多様性交流フェア参加



(2)RSPO 第 2 回総会 2005



(4)ボルネオはあなたが守る！キャンペーン 2007



(5)第 1 回ボルネオ調査隊 2007



(7)ボルネオゾウのレスキュー 2007



(9)新理事会メンバー 2010

ボルネオの生物多様性と野生生物の救出

ボルネオの熱帯雨林は、1ha 当りに同種類の木はたった数本しかないというほど多様な樹木で構成されています。またその樹木 1 本 1 本に様々な着生植物が付いていて、またそれぞれに色々な昆虫が棲んでいます。地上 70 m に達する林冠の昆虫については、今でも未知のものが大半であると言われてしています。

ボルネオの野生生物

絶滅危惧リスク EN: 絶滅危機 > VU: 危急



ミズオオトカゲ



ブタオザル



テングザル



イチジクと着生植物



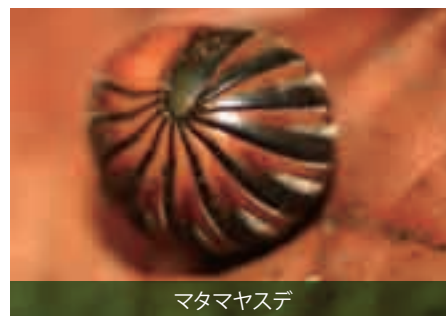
ピガクシダ(着生植物)



幹生果(イチジク)



マメジカ



マタマヤスデ



世界最小(?)のカエル



カササギサイチョウ



ルリカワセミ



ボルネオ(アジア)ゾウ



ベンガルヤマネコ



廃棄消防ホースの第 1 号吊橋を 2010 年 6 月 27 日に 1 頭のオランウータンが渡っているのが固定カメラで撮影されたもの。



同じ橋を 2010 年 7 月 10 日にまた渡っているが固定カメラで撮影された。同じ個体である可能性もある。

オランウータンの吊り橋

霊長類学者で NGO ウータン (HUTAN) 代表のイザベル・アンクレナス博士が多摩動物園を訪れました。博士は、そのときオランウータンの子供の遊具として廃物利用されていた消防ホースに目を留めました。これをボルネオ サバ州にオランウータン保護のためににもらえないかという要請を受けて、当社の総務部が動きました。

プランテーションで分断されていて、生息地が狭くなって繁殖の機会も少なくなっています。また一般に 1000 頭を切ると遺伝子の多様性が失われ絶滅するといわれています。オランウータンは他のサルと違って、川で泳ぐことができず溺れてしまいます。橋があれば対岸の生息地で餌を探したり、繁殖相手を見つけることもできます。以前に博士がワイヤーやロープを対岸にわたしたのですが、オランウータンがあまり利用してくれていないようでした。

当社が地元の消防署より廃棄消防ホース 38 本を譲り受け、現地に輸送しました。当社の資金援助で 2008 年 6 月に中西研究調査員他、BCT ジャパンのボランティアがキナバタンガン川下流域の保護区のメナンゴール川に全長約 20m の吊橋を架設しました。

これが第 1 号橋ですが、写真上のようにオランウータンが利用しているのが撮影されたものです。以前から地元の漁師の目撃談は

いくつかあったものの、決定的瞬間がカメラに記録されたのは初めてのことでした。

写真のようにツタや枝が伸びて木々の中に少し溶け込んでいます。これからが楽しみです。また、第 2 号橋も当社が地元の消防署から譲り受けた 130 本、よこはま動物園ズーラシアから送られてきた 40 本の計 170 本も同様に輸送し、BCT ジャパンで架設しています。これは全長 43 m のものですが、固定カメラの写真撮影はまだです。第 3 号橋も着々と計画が進んでいます。次号でご報告できると思います。

ゾウとオランウータンの救出

2010 年 5 月 22 日からサラヤの資金援助でサバ州野生生物局がオランウータン 1 頭を捕獲し、保護区へリリースしました。また、カーディフ大学、サバ州野生生物局、ボルネオ保全トラスト、KOC (キナバタンガン オランウータン保護プロジェクト) の共同のプロジェクトとして、ボルネオゾウに GPS 発信機を付けて移動経路を記録して、行動パターンの研究をはじめています。うまく行けばプランテーションと共存できる良い方法が見つかるかも知れません。



ボルネオゾウに GPS を取り付けた。



左から、代島裕世 (サラヤ株式会社) 坪内俊憲 (ボルネオ保全トラスト)



2010 年 5 月の活動でオランウータン 1 頭を捕獲し、保護区へリリースした。



緑の回廊計画

パーム・プランテーションと野生生物が共存できる最も効果的で実現可能な方法が、川沿いの熱帯雨林を保全する「緑の回廊計画」であると言われています。

「緑の回廊計画」取得地

ボルネオ島 サバ州のキナバタンガン川流域の保護区は、右の地図のように分断されています。この途切れた保護区をつなぐのが「緑の回廊計画」の第一の目的です。サラヤが支援しているボルネオ保全トラストやボルネオ保全トラストジャパンは、多くの方々の寄付金やヤシノミ洗剤の売り上げ1%のキャンペーンによって20haを確保することができました。

その内訳は下表のとおりです。

命名権購入者	名称	取得日	面積
サラヤ	サラヤの森 第1号地	2009年5月28日	約2.2ha
	サラヤの森 第2号地	2010年1月8日	約4ha
	サラヤの森 第3号地	2010年3月8日	約2ha
ベストサニタイザーズ社	ベストサニタイザーズの森	2009年9月11日	約2ha
ZERI ジャパン BCT ジャパン	第1号地「小さな森」	2008年2月26日	約2ha
BCT ジャパン	第2号地「ぞうさんの森」	2009年6月13日	約1.7ha
	第3号地「パールの森ミニ」	2010年3月8日	約6ha
計			約20ha

マレーシア コタキナバルのNPO Borneo Conservation Trust は、2010年5月14日に理事会が新メンバーに替わりました。新理事長にTan Sri Ibrahim Menuddin氏が就任し、サバ州野生生物局局長のDr. Laurentiusと当社社長の更家悠介が引き続き理事を勤め、プランテーション・オーナー2名、サバ州森林局局長がメンバーとなっています。前COOの坪内俊憲氏は、運営委員会に所属しています。

新理事長は就任の記者会見(写真)で「目標の13,000ha(キナバタンガン流域全体では約20,000ha)にはまだまだだが、数年で数千haは確保したい。」と前向きな所信表明をしました。



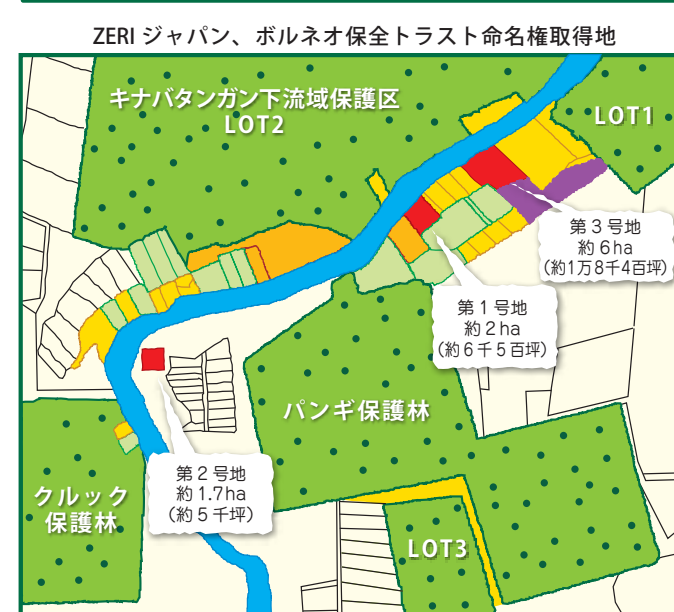
2010年5月13日コタキナバル、ボルネオ保全トラスト新理事就任記者会見



サバ州キナバタンガン川流域の保全状況



「サラヤの森」サラヤグループ命名権取得地



ZERI ジャパン、ボルネオ保全トラスト命名権取得地

RSPO 持続可能なパーム油のための円卓会議

2010年、サラヤはRSPO 認証パーム油からソホロリピッドを製造することに成功しました。今後は、RSPO 認証パーム核油の入荷に向けて努力して行きます。

RSPOとは

RSPOとはRoundtable on Sustainable Palm Oil(持続可能なパーム油のための円卓会議)の略、2001年にWWFによって提案され、2002年に組織され、2004年4月8日にNPOとして正式に発足しました。目的は、森林破壊や人権問題、社会問題を引き起こさないよう、自然環境と地域住民の暮らしに配慮したパーム油の生産を認証するものです。9月時点では、世界453団体が加盟しています。

サラヤは2004年12月14日に参加、日本に籍を置く企業としては最初の参加となりました。以来2005年1月の総会後のセミナーでのボルネオゾウの窮状についての報告や2005年11月23日のボルネオ保全基金設立構想の決議文の提出など積極的に働きかけています。

また、2009年11月3日の第7回総会では社長の更家悠介がサラヤのヤシノミ洗剤の売り上げ1%をキナバタンガン川の沿岸の保護地のBCT獲得支援について報告、「緑の回廊計画」の必要性を主張しました。

RSPO 認証パーム油の導入は、今年終盤の試験的な導入後、2011年春以降に本格導入の予定です。世界でもまだRSPO 認証油の使用は5%以下に過ぎないのが現状です。また、RSPO 認証パーム核油への移行についても努力する所存です。



2009年11月3日、RSPO 第7回総会(マレーシア クアラルンプール開催)セッション4でスピーカーを務める更家悠介(左)



同総会で更家悠介が当社の事例紹介と「緑の回廊計画」の必要性などを提言した。

9. 環境コミュニケーション

ステークホルダー全体と環境コミュニケーションを展開しています

企業のお客様とは展示会やパンフレットなど、消費者の皆様とは「ボルネオ調査隊」や雑誌・新聞広告、テレビなどのメディアを通して、従業員とはボルネオ研修派遣などで環境コミュニケーションを実施しています。



第3回ボルネオ調査隊

消費者選抜の第3回ボルネオ調査隊派遣が2009年9月18～22日に実施されました。

詳しいレポートは、
<http://www.yashinomi.co.jp/borneo/report/03/> をご覧ください。

第4回の募集も既に終了し、4組が選ばれ、2010年9月22日から26日に実施されました。この報告は、上記サイトをご覧ください。



エコプロダクツ展・エコプロダクツ国際展・生物多様性 EXPO など出展

エコプロダクツ 2009 (12月10～12日) 東京ビッグサイト、
第6回エコプロダクツ国際展 (2009年3月4～7日) ジャカルタ、
生物多様性 EXPOin 大阪 (2010年3月20～21日) 大阪国際会議場
などに出演しました。



第2回社員ボルネオ研修

2009年9月11日～15日、サヤ・グループ従業員16名がボルネオ サバ州の現地研修に参加しました。



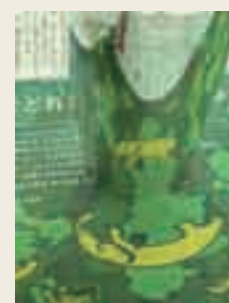
相川七瀬さんがボルネオを訪問

歌手の相川七瀬さんが、ヤシノミ洗剤とアラウの長年のご愛用者というご縁で、ボルネオの環境保全キャンペーンにご協力いただけることになりました。ボルネオにご子息とスタッフともに当社がご招待しました。体験談などを、ラジオ、雑誌、講演会などで披露されています。

プロフィール

シングル「夢見る少女じゃいられない」でデビュー。2001年に長男、2007年には次男を出産。また音楽活動以外にも、小説「ダリア」を上梓するなど、活躍の幅を多方面にも広げておられます。

<http://www.nanase.jp/> の「NANASE'S BLOG」に掲載のブログをご参照ください。



朝日広告賞受賞

朝日新聞社主催の「朝日広告賞」の生活関連部門 部門賞を受賞しました。「ボルネオはあなたが守る!キャンペーン」の広告で、17種類の動植物とシークレットの動物が、筒状の銀紙にイラストが映し出される仕掛けになったイラストを掲載したものです。(企画・制作は電通関西支社)



日本の超エコチカラ「地球環境大賞」特別番組 未来を救うスゴ技公開

2010年6月6日(日)14:00～14:55 フジテレビで放送された「地球環境大賞」SPの番組制作に当社が現地取材の案内など協力しました。実質は15分くらいでしたが、当社研究調査員中西がボルネオ サバ州の熱帯雨林の減少がオランウータンやボルネオゾウに与えている影響を説明しました。

イノシシなどを捉えるための罠に子ゾウがかかってしまうことが度々あり、鼻や足にナイロン製のロープが絡まったまま、成長とともに皮下に食い込んで行き、化膿して重篤になることが多く、写真はそんな子ゾウを捕獲して治療しているところを番組スタッフが撮影している様子です。

私たちが知らないうちに日々消費しているパーム油の真実を番組は簡潔に伝えていました。また、消防ホースの吊橋も紹介されました。

10. 社会貢献

非営利団体への協力

環境関連を中心に NGO や NPO などの非営利組織に人材・資金両面から支援しています。設立から関わり、中心的活動をしている ZERI ジャパンやエコデザインネットワーク、BCT ボルネオ保全トラスト (P28 参照)、理事長代理を務める日本 WHO 協会、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンも設立に関わっています。



特定非営利法人 ZERI ジャパン

資源とエネルギーを循環再利用し、廃棄物をゼロに近づけるゼロ・エミッション構想を出発点として、日本における環境教育の啓発と実践、産業クラスター（連環）の構築、会員企業への情報提供や技術指導などを行い、循環型社会を実現するために 2001 年に設立された NPO 法人です。

サラヤでは、理事長を当社社長更家悠介が務める他、資金・人材両面から支援し、事務局も東京サラヤ株式会社本社内に置いております。

2008 年に引き続いて、2009 年 2 月 17 日シンポジウム「生物多様性と企業の役割～パーム油の現場から～」を開催、続いて同年 3 月 30 日に跡見学園女子大学文京キャンパスで国際環境 NGO の FoE Japan と共催で市民講座「生物多様性と CSR」を開催しました。



ゼロエミッションの提唱者、グンター・パウリ氏を囲んで。



日本 WHO 協会

本業の衛生の分野においても、非営利団体の支援をしています。社団法人日本 WHO 協会は、WHO 世界保健機関憲章の精神を広く普及徹底し、その事業目的達成のために設立され、世界中の人々と共に健康の増進と保護に取り組んでいる団体です。一時期は低迷していましたが、近年、活発な活動を再開しています。

サラヤでは、2008 年 5 月より、社長の更家悠介が理事長の代行を務め、また 2009 年 2 月より社員を事務局に派遣するなど、人材・資金・ブレンなど各方面から活動を支援しています。

日本 WHO の 2009 年からの主な活動は、第 1 回から 5 回までの定期健康セミナーと 2 回のインフルエンザ対策セミナー開催などです。詳細は、日本 WHO 協会サイト <http://www.japan-who.or.jp> の「イベント情報」をご参照ください。



2009 年 11 月 26 日 (木) 大阪朝日生命ホール (大阪市) インフルエンザ対策セミナー ～最新情報と企業としての適切な対応～



エコデザインネットワーク

エコデザインとは、モノづくり、マチづくり、地球環境づくりの立場から構想し、持続可能な社会の実現と発展に向けて活動する団体です。弊社は、バイオマス部会、エコプロダクツ研究会、エコ照明部会、ソーラー部会に所属し、活動に取り組んでいます。

エコデザインセンター"ecodec"がオープン

エコデザインビジネスの拠点を目指して、NPO 法人エコデザインネットワークが企画運営する「エコデザインセンター」が 2010 年 1 月 26 日、アジア太平洋トレードセンター I T M 棟 11 階にオープンしました。「エコデザインの見える化」をコンセプトとする展示スペースでは、出展企業による事例展示やテーマ展示が展開されます。イベントスペースでは、セミナーや相談会、商談会など多目的に活用されることになっています。

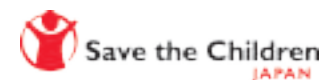
エコデザインセンターでは、NPO 法人エコデザインネットワークの知材・会員企業のネットワークを活用し、エコ化推進への様々な技術・製品を紹介します。また、エコデザインを実現する人材の育成を行うビジネスセンター機能を発揮できる場として機能できるよう、一般ユーザー、企業、業界団体へのエコに関する相談、提案、ビジネスマッチングを軸とした総合的なエコデザインの情報発信のスペースを展開します。エコデザインビジネスを推進する大阪の拠点、さらには日本の拠点になることを目指しています。



2010 年 5 月 26 日 おおさか A T C グリーンエコプラザにおいて、「気候変化への軽減策、適応策そしてジオエンジニア」（講師：山本良一先生）を開催した。



エコデザインセンター "ecodec" が、ATC (アジア太平洋トレードセンター) にオープンした。エコデザインネットワークによって企画運営されている。



社団法人

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

エグランタイン・ジェブ女史は「人類の本当の敵は、洋の東西を問わず、貧困・不衛生・病気・救いようのない無知である」と確信し、セーブ・ザ・チルドレンの活動をはじめました。サラヤでは、少しでも世界の子供たちの衛生環境が良くなるようにと願って、この活動に協賛しております。

1986 年にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは設立されました。設立の際、弊社社長の更家悠介も深く関わっております。その後、社団法人となり、2001 年には外務省より『特定公益増進法人』として認可を受けています。

現在は、ネパール、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、ヨルダンに現地事務所を構え、教育や栄養改善、保健衛生などの援助活動を行っています。国内では、世界の子どもたちの現状を日本の子どもたちに知ってもらうための活動 (Speaking out) を展開しています。



自然派のサラヤは、世界のこどもの夢と笑顔をサポートします。

応援します。世界のこどもたち。

写真提供 (社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

11. お客様とサラヤ

お客様とのコミュニケーション

電話やインターネットで直接寄せられるお問い合わせなど、また営業担当者に伝えられるお客様のご要望や苦情を経営への示唆として、開発やサービスに活かせる仕組みをつくっています。

CRM 推進室

Customer Relationship Management の略で顧客を正確に知り、顧客の価値観を満足させ続けることによって顧客から必要とされる関係を構築・維持し続けることを目指します。「コールセンター・お客様事務センター・営業担当者」に伝えられる「ご提案・ご要望」「ご意見・クレーム」などのお客様の声は CRM 推進室で内容を適切に把握して経営層や開発部門、品質保証部門に貴重な経営への示唆として商品と当社サービスに反映させる仕組みを構築しております。

コールセンター

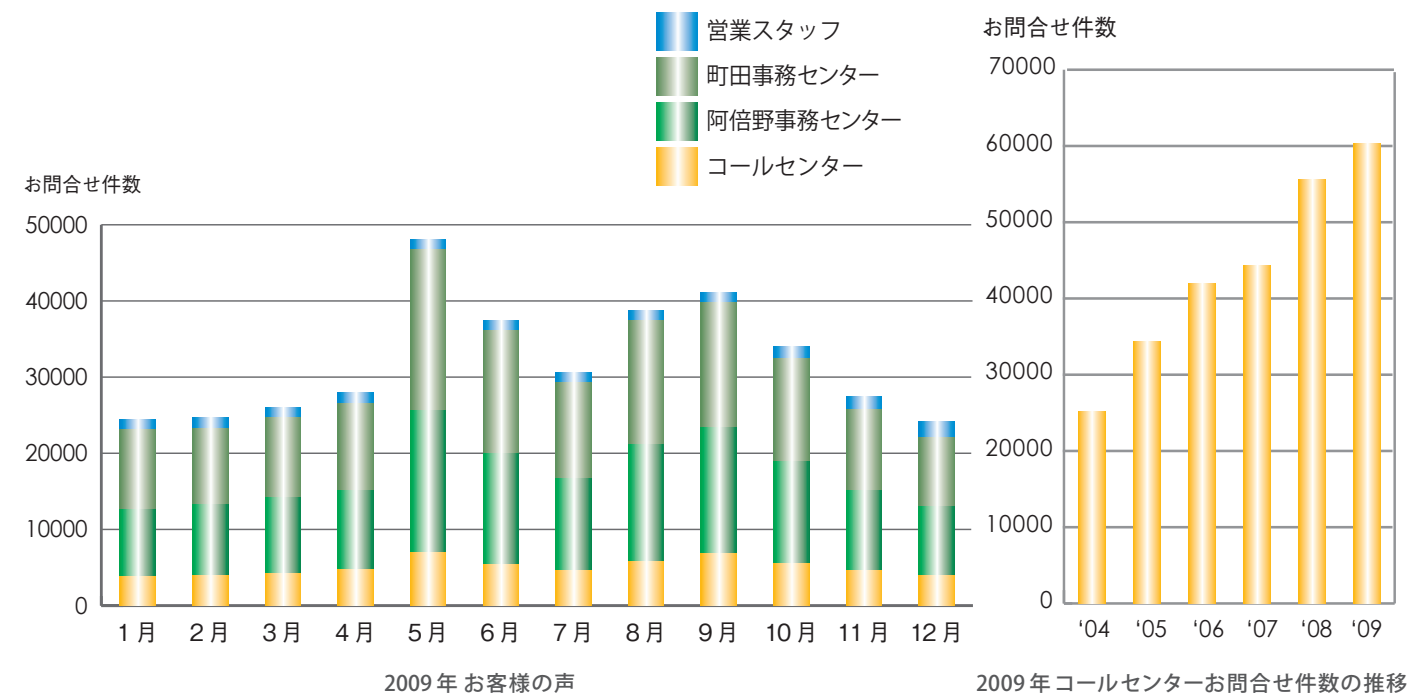
当社は 2003 年 6 月にコールセンターを開設いたしましたが、2009 年度には年間約 6 万件近いコールをいただいております。お客様からの様々なご意見、ご質問に迅速で適切なお答えができる様に、度々いただくご質問などを想定して、「Q&A」を作成し、迅速な対応と分かりやすいインフォメーションの充実のために、日々努力しております。

お客様事務センター

当社製品をご利用いただいている企業のお客様に速やかな受注対応や納期回答、当社営業担当者への迅速な取次ぎなどの事務サービスを強化・ご提供するために「お客様事務センター」を東京と大阪に 2006 年より開設致しました。

2009 年度は約 30 万件のコールをいただいております。特に「商品・サービスに関する苦情」、「商品・サービスに関するご提案」につきましては徹底した対応ができるような体制を整えております。苦情に関しましては、品質保証部門による原因調査結果、再発防止策の立案などお問い合わせいただいたお客様にご報告させていただきます。

併せてお客様から頂きました各種ご提案につきましても可能な限り情報の提供を行います。また、商品のお届けに関するご質問につきましては物流のスピード化に合わせて迅速なご返答を差し上げるため、システムの構築を早急に進めて行きます。



営業訪問先でのお客様の声

当社は全国約 500 名の営業スタッフが、日々の営業訪問・衛生技術のお手伝い・機器メンテナンスの際に直接いただく「ご意見」「ご提案」「お問い合わせ」を大切な情報資産であると捉えております。2004 年より、お客様の声を専用データベースにおいて入力管理しております。2009 年度は約 1 万 7 千件に上っております。

お客様からの声をもとに経営層はじめ営業・開発・品質保証の各部門と情報の共有と課題への対応を今後も推進してまいります。

インターネットでのコミュニケーション

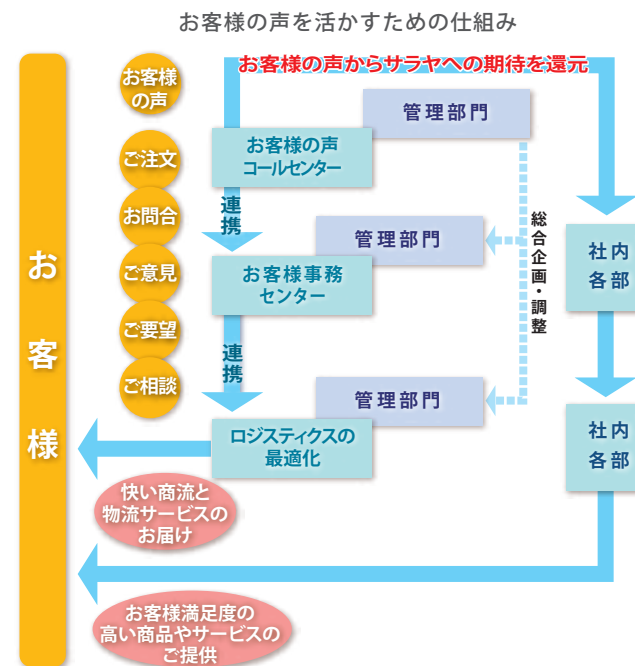
サラヤのホームページは、代表サイト saraya.com のほか、健康情報サイトや食品衛生サイト、そしてヤシノミ洗剤などのブランドサイト、ボルネオ環境保全プロジェクト、当環境レポートなどの環境への取り組みのサイトなど、いくつもの専門サイトで、詳しく新鮮な情報を公開しています。

「感染と予防 Web」では、新型インフルエンザの予防と対策や最新の詳細な情報を掲載しております。今後は、紙資源節約のため Web をはじめ電子媒体の利用をさらに進めてまいります。また、Web によるお問い合わせには、現時点では各担当者によって個別に対応しておりますが、これについても、システム化を進めております。

SARAYA 100 万人の手洗いプロジェクトサイト <http://tearai.jp/>



ヤシノミ洗剤のブランドサイト <http://www.yashinomi.co.jp/>



お客様の個人情報

サラヤでは、コールセンターやインターネットで問い合わせいただいた消費者の方々、サラヤが主催しているセミナーの参加者、その他お得意様に関わる様々な個人情報をお預かりしています。弊社ではこれらについて、「個人情報保護方針」を遂行するための細かな行動規範を定めています。

この行動規範は、経済産業省の「個人情報の保護に関する法律」についての経済産業分野を対象とするガイドライン」をもとに、当社で作成したものです。また、お客様の個人情報取得に際しては、弊社個人情報保護の取り組みについての統一文言を添付して、どの部署か

ら発生するものでも、同じ取得基準が適用されるように取り組んでいます。さらにサラヤホームページ上に個人情報保護方針を掲載しています。(<http://www.saraya.com/privacy/>)

従業員の個人情報

従業員の個人情報管理については、厚生労働省のガイドライン「雇用管理に関する個人情報の適正な取扱いを確保するために事業者が講ずべき措置に関する指針について」に沿った適正な管理を行っています。

12. 従業員とサラヤ

人事

従業員がいきいきと、持てる力を存分に発揮できる社会にするため、制度や職場環境の改善に努力しています。

人材は最も大切な資源

弊社では従業員を最も大切な経営資源として位置付けています。その経営資源を有効に活用するためには、従業員が誇りを持って、やりがいを感じ、持てる力を発揮できる環境や制度を整備することが必要であると考えています。そのために、採用、雇用、処遇などに細心の配慮を心掛けることや、安全で快適な職場環境を実現することに、日々の努力を重ねています。

従業員に関わるあらゆる場面において、その一人ひとりの人間性と多様性が尊重され、非合理的な理由による差別がない制度、従業員の人権が尊重され、安心して働ける職場、このような会社づくりに取り組んでいます。

人事制度

従業員一人ひとりが積極的に業務に取り組み、仕事を通じて成長し、誇りとやりがいを感じられるよう、目標と評価制度による成果評価、優良社員表彰・成果表彰等の各種表彰制度、専門業務型裁量労働制など様々な人事制度・施策に取り組んでいます。

また、自ら望むキャリアアップを実現する機会を提供する、キャリアチャレンジ制度（社内公募制度）、2007 年 4 月からはジョブグレード制度も導入しています。

社員意識調査や各事業所訪問など、従業員の生の声を吸い上げ、参考にすることを心がけています。今後は制度の改善や充実をはかり、よりいっそう働きやすい職場環境の実現に努めます。

目標と評価制度

自身で設定した目標への達成度とそのプロセスを評価し、それを処遇に反映させるもの。目標設定段階では、上司との面談を経て各自「目標と評価シート」を作成、それをもとに達成度とプロセスが評価されます。評価は本人にフィードバックされます。

キャリアチャレンジ制度

自身のキャリアデザインに合った新しい職種に挑戦したい、というキャリアアップを目的とした人事異動を支援する制度。社内で公募される職種に、自己申告で自由に応募できるものです。

育成制度

当社では、自ら学び、能力向上のために自分への投資を積極的に行う従業員に対して、積極的に支援するという方針のもと、オン・ザ・ジョブ・トレーニング（OJT）、階層別教育プログラム、職種別教育プログラムなどの教育研修を実施しています。また、育成的見地からのジョブ・ローテーション、自己啓発支援を目的とした通信教育制度等を用意しています。

新人研修

最初の3週間に研修期間を設けております。開発から生産、販売までの仕事の流れを講師の説明と実習などを通して、新社会人に理解しやすいようカリキュラムを組んでいます。環境教育はその中で、「自然派のサラヤ」の商品開発コンセプトや弊社のISO活動の内容、生産の現場での環境負荷削減の対策を中心に実施しています。

全社 ISO 活動教育訓練

全社では、年数回、部署ごとにISO活動の教育訓練を実施しており、活動実績の評価と反省、今後の目標の確認などを行っています。また、この機会に環境負荷削減のために現場から様々な改善の提案が出されるなど、環境教育の場としても有効に利用されています。

サラヤフラインプラン

新卒入社対象、考え行動する自立・自律型社員の育成を目的とした3カ年育成・定着プログラムです。年1〜2回の集合研修を実施。

部門別・職種別教育

部門や職種別に、より実践的な知識の習得・向上を目的とし営業職のための「やしのみ塾」、食品衛生インストラクターのための「インストラクター研修」などの実施をしています。

通信教育制度

自己啓発として、専門知識やビジネススキルの習得など、個人の知識・能力の向上のための教育支援制度です。修了成績に応じ費用を補助します。

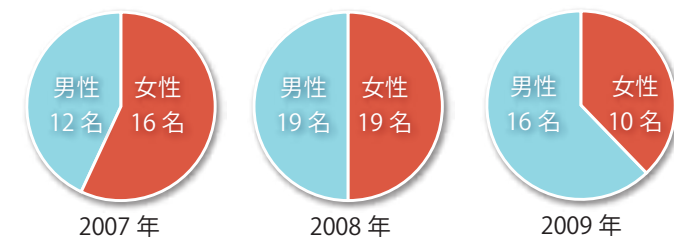
高齢者雇用

従来から、60 歳定年後の再雇用を積極的に推進してきましたが、2006 年3月に「定年退職者再雇用制度」を導入し、希望者全員について、60 歳定年後も最長 65 歳になるまで再雇用しております。現在 60 名程度が、営業・生産等の様々な部署で後進の指導・育成に活躍しています。

男女雇用機会均等

性別にかかわらず、誇りとやりがいを持って働くことができる環境を整えており、採用、昇進、昇格、昇給、人材配置、教育研修機会等あらゆる人事処遇において性別による差別をしていません。個性豊かで、高いプロ意識とモラルをもった自立・自律型人材を積極的に採用・活用しています。

過去3年の新卒採用実績（連結）



サラヤ従業員正社員男女比較

	女 性	男 性
従業員数	164名	480名
比 率	25.5%	74.5%
平均年齢	33.5歳	38.4歳
平均勤続年数	7.0年	9.4年

2009年10月現在

障がい者雇用

2009 年 10 月現在、13 名の障がい者が営業・生産・事務等の様々な職場で活躍しています。障がい者雇用率の法定雇用率は 1.80%、全国平均は上昇傾向にあり、平成 21 年度で 1.63%となっています。2009 年 10 月時点で法定雇用率の 1.80%を下回る 1.45%になっています。今後も、関係各機関の協力を得て積極的に障がい者の雇用につとめ、企業としての社会的責任を果たすよう努力いたします。

社団法人 大阪府雇用開発協会会長表彰の「勤労障害者表彰」でサラヤ株式会社から2名が表彰されました。詳細はP 39 をご覧ください。

外国人雇用

弊社では多様な考え方・価値観を理解し、それを経営に適切に反映していくことが肝要であると考えており、外国人採用活動も積極的に行っています。

2009 年 10 月現在の外国人従業員数は 18 名で、出入国管理及び難民認定法や関係諸法規を遵守し、適切な雇用管理を実施しています。

出身国別・職種別外国人従業員数

出身国別（）内は前年		職種別（）内は前年	
中 国	10 (8)	研究開発	5 (4)
ロ シ ア	2 (3)	機器設計	2 (2)
フィリピン	2 (2)	資材購買	3 (3)
ウクライナ	1 (1)	海外営業	4 (3)
タ イ	1 (1)	デザイン	1 (1)
ア メ リ カ	1 (1)	品質管理	1 (1)
韓 国	1 (0)	翻訳通訳	2 (1)
計	18 (16)	計	18 (16)

従業員の内訳と正社員・有期雇用社員・パートタイマーの比較

	役 員	正 社 員	有期雇用社員数			パートタイマー	直接雇用数計	派遣社員数	合計
東京サラヤ	5 人	291 人	15 人	3 人	18 人	48 人	362 人	0 人	362 人
サラヤ	15 人	644 人	48 人	36 人	84 人	234 人	977 人	287 人	1264 人
スマイル産業	2 人	11 人	0 人	8 人	8 人	47 人	68 人	0 人	68 人
合計	22 人	946 人	63 人	47 人	110 人	329 人	1407 人	287 人	1694 人
東京サラヤ サラヤ	平均賃金月額	329,169 円	245,649 円			103,010 円			
	社会保険	加 入	法定の加入要件を満たせば適用						
	産前・産後休業	法定通り適用							
	育児休業	原 則：対象の子供が 1 歳に到達する日の前日迄 例外 1：保育園に入所できない場合、その後 6 ヶ月延長 例外 2：例外 1 の状況で会社が認めた者に限り、その年度末まで再延長							
	定年退職金	あ り	な し						

2009年10月現在

従業員が健康的に、快適に働ける環境づくりに努力しています。

仕事と家庭の両立支援

仕事と育児、あるいは介護の両立のための短時間勤務制度、時差出勤制度など、様々な支援制度を設けているほか、育児等による退職者の再雇用や在宅勤務の支援など、育児や介護を行う従業員の雇用環境の整備に積極的に取り組んでおります。過去3年間の育児と介護に関わる制度利用の実績は下記の通りです。

仕事と子育ての両立支援

子育て期に一定期間育児に専念できる休暇・休業制度や、職務負担を軽減することで子育てを支援しています。仕事と家庭の両立を応援します。
産前・産後休暇、育児休業、育児短時間勤務制度、育児時差出勤制度、所定外労働免除、時間外労働・深夜勤務の制限、看護休暇など。

仕事と介護の両立支援

介護を必要とする家族を持つ社員が仕事をしながら介護ができるよう支援する制度です。
介護休業、介護短時間勤務、介護時差出勤制度、時間外勤務・深夜業務の制限など。

男性の育児参加サポート宣言

急速な少子化の進行は、社会経済全体に極めて深刻な影響を与えます。今、国・地方公共団体・企業などが一体となって対策を進めていくことが必要とされています。このような背景の中でサラヤは、女性社員だけでなく男性社員も子育てや介護をしながら働き続けることができる組織・職場環境づくり（ワーク・ライフ・

バランス）のための働き方の見直しなど、次世代育成支援対策への取り組みを進めています。
この一環として、このたび財団法人21世紀職業財団 大阪事務所より2007年より2年間の予定で「男性社員の育児参加促進事業実施事業主」の指定を受けることになりました。当社では、この指定を受け、女性社員はもとより男性社員においても、仕事と家庭を両立させることができるような制度を整備しています。2009年1月に男性1名が育児休暇を取得しています。男性の育児参加を支援する企業風土をつくり、意識改革を進めます。

ワーク・ライフ・バランス

仕事とプライベート双方の充実が、相乗効果や好循環を生み出すという考え方が『ワーク・ライフ・バランス』です。サラヤでは仕事に集中できるウィークデーとゆったりと休日を取得できるよう勤務時間と休暇の制度を変更いたしました。まず勤務時間を8:30～17:00を2010年5月16日より9:00～18:00に実労30分の時間延長にし、その時間を取得できる連続休暇を12日調整増やし、調整しました。（下表参考）

また、増えた休日を有効に使えるよう支援するようリゾート会社やスポーツクラブと契約し、従業員が利用できるプログラムも充実させています。プログラムは適切かつ機会の公平さを基準に策定することを心掛けています。また、社内アンケートを反映して、2006年より新たにリゾート会社、スポーツクラブと契約し、従業員の満足度の向上に努めています。

過去3年の育児介護実績
(サラヤ株式会社単体)

産前産後休暇・育児休業	20名
介護休業	1名
短時間勤務制度	13名
時差出勤制度	7名
育児休業からの復帰率	90%

ワークライフバランス特別休暇

休暇名	日/年	
ボランティア休暇	5日	地域社会への貢献のための奉仕活動に際し取得できる休暇（政治・宗教に関する活動は除く） （例） ・公共団体・自治会等の会議・行事の参加 ・地域消防団活動、清掃活動、防犯活動、安全活動への参加 ・国体・公認団体の競技会等の参加 ・NPO等への参画・支援等 ・児童・福祉施設等への教育・支援活動 ・その他所属長が認めた地域社会との交流等の関する活動
自己啓発休暇		社会人としてのスキルを磨くための行動に際し取得できる休暇 （例） ・講演会、セミナー等への参加 ・展示会、個展、見本市等への参加・見学 ・資格取得の講習日、受験日 ・異業種交流会の参画・参加
メモリアル休暇	5日	本人・家族等の記念日や節目の日に際し、取得できる休暇 （例） ・慶弔休暇に付加（延長） ・誕生日、結婚記念日 ・命日、法事 ・その他所属長が認めた重要な行事、イベント等
ヘルスケア休暇		本人や家族の健康維持管理・増進行動に際し、取得できる休暇 （例） ・定期健診再検査（精密検査） ・人間ドック ・定期的通院等
リフレッシュ休暇	2日	連続公休日の前後（夏季・GW等）に付加し、休暇延長によるリフレッシュ促進のための休暇 （例） 生産部門：生産本部の定める日を指定休暇とする その他部門：所属ごとでの交代・選択性の休暇とする

次世代育成支援についての認定

2006年8月、大阪府から「男女いきいき・元気宣言」事業者に認定、登録されました。（http://www.pref.osaka.jp/danjo/ikiiki/com_59）また、2009年5月大阪労働局より次世代育成支援企業認定マーク（愛称「くるみん」）を取得いたしました。



安全衛生委員会

従業員の健康管理と職場環境の整備を目的に、産業医、衛生管理者、総務本部で構成する安全衛生委員会を定期的に開催し、定期健康診断のフィードバックや労災の防止など快適で安全な職場環境にするため検討を重ね、安全衛生の向上に努めています。

セクシュアルハラスメント相談窓口

サラヤでは、差別や偏見のない明るい職場づくりを維持するため、またさらなる人権に対する意識の向上のため、平成19年4月に「セクシュアルハラスメント相談窓口」を設置し、全社がセクシュアルハラスメントの防止の意識を高くするよう、その定義と対策について、取り決めにいたしました。

これは、正社員、嘱託社員、準社員、パート・アルバイト、派遣社員等、サラヤにおいて働いているすべての者のみならず、顧客、取引先の人員などに対しても、広く適応される「セクシュアルハラスメントの防止に関する規定」を制定し、具体的な取り組み内容を明確にしたものです。

相談窓口は本社の総務部門に設置し、主幹部署・相談窓口責任者・相談窓口担当者が全社に公開されています。また、相談方法やプライバシーの保護も明確にし、従業員にとって相談しやすい環境になるように、十分配慮しています。

また、実際の問題発生時には、相談窓口において既定のマニュアルに則った対応の実施とともに、専門家である顧問の弁護士・社会保険労務士の社外顧問アドバイザーと連携を図りながら、厳格な対応をはかる仕組みを構築し、体制を整えています。

サラヤから2名が勤労障害者表彰

社団法人 大阪府雇用開発協会長表彰の「勤労障害者表彰」にサラヤ株式会社から2名が選出されました。表彰式は2009年10月7日大阪国際交流センターで開催され、広島営業所の所長 砂野浩司（写真左）と商品開発本部 CD部WEBデザイングループの多島敏文（写真右）が表彰を受けました。

高齢者雇用開発コンテスト理事長表彰「努力賞」をサラヤが受賞

また、同時に独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構表彰の高齢者雇用開発コンテスト理事長表彰の「努力賞」をサラヤ株式会社が受賞しました。



表彰者コメント

広島営業所 所長 砂野 浩司

障害の種類や程度によって、仕事や生活に様々な不便を感じるものだろうと思いますが、私自身は2歳の時から（左前腕欠損）なので、それが当たり前で生活してきたため、あまり自覚がないのが本音です。
福祉施設への営業をしていましたが、得意先へ挨拶に一度行くと、必ず覚えてもらえるというメリットが私にはありました。障害も色々あると思いますので、その人の状況を理解し、その特徴、スキルを活かすための職場環境の整備が必要だと思います。またそんな社会になる日を待ち望んでいます。

商品開発本部 CD部
WEBデザイングループ 多島 敏文

在宅勤務ということで入社を決意しましたが、当初はコミュニケーションがうまくとれるかととても心配でした。幸い、入社時からずっと上司や同僚に恵まれ、フォローしていただきながら勤務しています。

13. サイトレポート

サラヤ本社

	2000年BM	2009年計画	2009年実績	自己評価
電力 (kWh)	437,848	437,848	405,977	◎
燃料 (ℓ)	14,824	12,600	9,809	◎
紙資源 (枚)	867,113	867,113	1,505,372	××
廃棄物 (kg)	34,457	34,457	46,274	××
リサイクル率	4.1%	65%	51.9%	×

2009 年度サラヤ本社域の環境 ISO 活動は、下記の目標を設定致しました。

- ① 使用電力量を 2000 年実績以下とする。
- ② 燃料 (主に車のガソリン) の使用量を 2000 年実績の 85%以下とする。
- ③ 紙 (主にコピー用紙) の使用量を 2000 年実績以下とする。
- ④ 排出する廃棄物の量を 2000 年実績以下とする。
- ⑤ 廃棄物のリサイクル率を 65%以上とする。

表のように①、②は前年に引き続き達成することができました。①は、クーラビズ、ウォームビズ徹底についての本社域全員の協力により、エアコンの電力使用量を削減することができました。また車での移動を控え、できるだけ公共の交通機関を使うようにし、燃料の削減を達成できました。また、ここ近年、本社と工場・営業所との多拠点間の通信インフラと TV 会議システムを改善の結果、車での移動が減少したことも貢献しています。コミュニケーション手段の IT 化は CO2 削減にも大いに役立っているようです。

しかしながら③④⑤は残念ながら大幅な未達となりました。これは、売り上げが対 2000 年比で約 2.4 倍に急激に増加したため売上比例的な変動要素の削減が追いつかなかったのが原因です。このため次年度は、各種手順書の見直しを行い、紙資源の節約のために仕事のペーパーレス化と IT 化をより推進してまいりたいと思います。



サラヤ株式会社
経理本部 常務取締役
繁田 和夫

伊賀工場

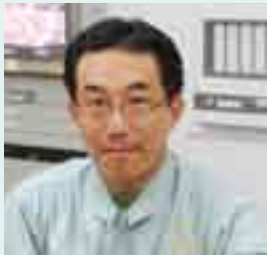
	2000年BM	2009年計画	2009年実績	自己評価
電力 (kWh)	482,314	569,131	997,298	××
燃料 (ℓ)	15,773	13,565	24,505	××
上水 (m³)	7,837.0	15,439	18,568	××
紙資源 (枚)	72,375	90,758	131,316	××
廃棄物 (kg)	63,460	199,899	275,997	××
リサイクル率	20.4%	99%	99.8%	◎

昨年の伊賀工場は、世界中で蔓延した「新型インフルエンザ」の感染予防のための、消毒剤、うがい薬を中心とした生産を日夜続けてきました。しかし、振り返って見ますと、当時は、社会的供給義務を果たすことに全精力を傾注するあまり、「エネルギー消費」については正直、注意を払っていませんでした。

その顕著たる事例として、「エネルギー消費」は、“製造量にほぼ比例”、“生産性の良し悪しが大きな影響を与える”という一般則傾向に対し、2009 年緊急生産体制時の「製造量」は前年比 1.5 倍、「エネルギー消費量」は 2.0 倍となり、当社が掲げている環境方針を大きく逸脱し、残念な結果となりました。

社会的義務を重要視するあまり“環境に対して何の配慮も出来なかった”この反省を活かして、急激な事業活動の変化(規模拡大)に伴う増加使用エネルギーを新たな創意工夫と、従業員の節約意識を再覚醒させて、消費エネルギーを最小に抑えるべく活動して行きます。

2010 年は、伊賀工場の自然豊かな恵まれた立地条件を利用して、生物多様性に焦点を当てた活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えております。



サラヤ株式会社
伊賀工場 製造部 次長
宮武 浩一

SARAYA MFG (Thailand) Co., Ltd. (タイ工場)

サラヤ タイ工場は、2008 年の ISO14001 の認証の翌年、2009 年 11 月に ISO 9001 の 2008 年版への更新を完了いたしました。		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年目標
タイ国の法律が日本に比べると整備されていない所があり、法規制の解釈が年度によって変わることがあって、ISO 規格との調整に苦慮することが多々あります。	電力 (kWh/年)	661,332	976,736	1,236,880	1,306,029	1,163,214	前年比3%の削減
環境 ISO 活動については、電力、燃料、上水、複写用紙の使用量の削減と廃棄物発生量の削減とリサイクル率の向上に向けて、全員参加の活動を行っています。	燃料 (kℓ/年)	11,900	20,000	28,300	52.4	47.29	前年kℓ/年を維持管理
	上水 (m³/年)	15,474	27,652	31,947	38,029	36,081	前年比15%の削減
	紙資源 (枚/年)	178,000	247,000	244,000	271,000	262,386	前年比5%の削減
	廃棄物 (t)	79.3	153.3	146.7	181.4	153.3	前年のt/年を維持管理
	リサイクル率	60%	73%	73%	60%	58%	58%



SARAYA MFG (Thailand) Co., Ltd.
COO
山田幸雄

東京サラヤ本社・東京営業所

	2000年BM	2009年計画	2009年実績	自己評価
電力 (kWh)	260,045	234,041	221,900	◎
燃料 (ℓ)	81,260.7	79,636	89,993	×
上水 (m³)	2,935	1,174	1,167	○
紙資源 (枚)	743,500	624,575	639,000	△
廃棄物 (kg)	49,100	36,825	19,168	◎
リサイクル率	37.3%	90%	86.3%	△

東京本社、東京営業所の環境取組実績では、凡そ計画値以内で推移いたしましたが、ガソリン消費量の削減のみが目標を達成いたしませんでした。これはインフルエンザの大流行によるお客様へのご要望やサービスの対応など理由の一つとしてありますが、現在すでに取組んでおります直接的な改善としての事業所内カーシェアリングによる車両の増加抑制、ハイブリッドなどの高性能車両による省エネ化、また公共交通機関の利用などをうまく組み合わせながら効率のよい移動手段を更に推進していこうと思います。今、私達は自然派のサラヤとして、お客様へのサービスの提供を持続可能なものとする為に企業の姿勢を、地球環境を考えた環境方針、品質方針に反映させるよう努めております。

今日の地球規模での環境を見ますと、地球温暖化によるさまざまな予期せぬ変化がじわじわと私達の生活に迫ってきている気がいたします。このことは、自然界だけでなく経済にも及び、人口増加による資源調達とその消費が深く関係してきております。

「地球サミット」では砂漠、気候変動、生物多様性に関する 3 条約が誕生しましたが、今サラヤが参加支援をしているボルネオ保全トラストの活動や RSPO に参画する姿勢が、いまだ条約が採択されていない森林の世界条約(森林保全や統一的な基準を決める条約)の締結に繋がればよいと願っております。いずれにしても「持続可能な発展」の為に資源の活用を今の世代で終わらせるのではなく、次世代、その次の世代へとサラヤも微力ながら応援活動していくことが非常に大切です。

これらの活動の視点を東京サラヤに移してみますと、東京本社では周辺地域への有益な取り組み活動が定着しつつあります。全社の ISO 活動に生物多様性保全活動が環境方針に追記され、2009 年春からその活動をテーマに活動をし始めました。内容は「蝶の道プロジェクト」の参加と、社内有志を募り近隣公園の花壇の維持管理を推進している品川区の「みどりと花のボランティア」活動に積極参加しております。

このことによって景観の改善にもつながり、通りの人が花壇を眺め足を止める姿をよく見かけます。又、近所の方から「花壇を造ってくれてありがとう」とお礼の言葉をかけられることもあります。

また、環境教育についても品川区を中心に活動しており、「ボルネオのオランウータンやゾウの話し」、「地球温暖化の話し」等の講演依頼を快く引き受けております。これらの活動が品川区から評価され「しながわ環境大賞」も頂くことができました。

こういった地域の活動も大切にしながら、今後も企業の環境についての取り組みのあり方を追求していきたいと考えております。



東京サラヤ株式会社
常務取締役
丹波 章彬

大阪工場・スマイル産業

	2000年BM	2009年目標	2009年実績	自己評価
電力 (kWh)	1,346,920	1,602,835	1,544,999	○
燃料 (ℓ)	112,443	133,807	111,959	◎
上水 (m³)	42,393	42,393	43,745	△
紙資源 (枚)	340,000	136,000	60,000	◎
廃棄物 (kg)	522,740	710,926	952,840	××
リサイクル率	26%	95%	95.7%	◎

2009 年は新型インフルエンザの感染予防での急激な増産要請がありました。大阪工場では電力、エネルギー消費、上水、紙資源の達成度は△(ほぼ達成)以上の成果を挙げましたが、廃棄物量の達成度は××(79%以下の未達成)となっています。

各部署が急激な増産に対処することで精一杯であったために、量産することが最優先となり、不良品の廃棄率が多くなったこと、普段できている製造釜の洗浄工程についても、用水の節約よりも次の製造に早く取り掛かれるように手早く完了することが優先されたことなどが原因として考えられます。今後はこの経験を元に、急激な増産対応の中でも、環境マネジメントに支障を来さないような工場体制を整えて行くよう取り組んでいきたいと考えています。

また総務課主導のもとに環境側面において、玉手中学校生徒、地域福祉委員とともに大阪工場周辺地域の美化活動(20 名参加)、献血活動(38 名参加)食堂使用済み割り箸を回収(2009 年 82.32kg)し、製紙工場で再利用しています。これらは、大阪工場とスマイル産業合同で行っております。

スマイル産業

	2000年BM (2005年)	2009年目標 (2005年BM)	2009年 実績	対2000年 比率%	自己 評価
電力 (kWh)	685,609 (782,605)	685,609 (782,605)	989,448	114.7%	××
紙資源 (枚)	23,891 (24,951)	23,891 (24,951)	33,110	138.6%	××
廃棄物 (kg)	18,950 (55,267)	18,950	60,174	317.5%	××
リサイクル率	69.6% (98.2%)	90% (90%)	95%		◎

2005 年度に設備の増設等を行っており、電力は対 2005 年累積比率は 126.4%の結果でしたが、2005 年と比較して稼働時間が 29.3%増加しています。このことを考慮すると電力削減は維持できていたと考えます。

複写用紙は対 2005 年累積比率が 132.7%。この間の対 2009 年の稼働時間の 29.3%増で考えると、ほぼ昨年並みで、微増となっています。これについても新型インフルエンザ対応の生産の増加に伴う影響であると考えています。

廃棄物、リサイクル率は、再生プラスチックとして排出していた物を、自社にて異物を除くなどして、原料として再利用しています。このため再生率の目標を上方修正し、90%としましたが、達成できました。また、排出量については対 2005 年の 8.9%増加となっていますが、稼働時間が 32.7%も増えているので、目標は達成できていると考えます。



サラヤ株式会社
大阪工場 生産部 次長
戸田 和彦

この10年のEMS活動を振り返って

成果と今後の取り組み方針

活動成果

2000年度末より開始した当社のISO14001に基づく「環境管理活動＝EMS活動」の成果について総括してみました。我々は、このEMS活動の大方針を「地球温暖化防止への寄与活動の推進」とし、その方針にもとづいて、当社の著しい「環境側面」を特定し、全社的な活動の目標設定を行ってきました。

10年間にわたるこの活動成果は、本誌本文にもグラフ等で示しておりますが、2009年度時点では、下記の様に総括できます。

(1) 活動大項目その一…エネルギー消費削減(化石燃料の消費削減)

主たる活動は、①「電力」消費削減、②「燃料」消費削減の2項目です。その成果は、活動開始の2000年をベンチマークとして、企業活動の規模拡大を考慮した比率で計っています。弊社の2009年度の企業活動規模は、新型インフルエンザの影響もあり、「自社製品売上高ベース」で、対2000年比～200%（2.0倍）に達しています。この企業規模拡大を考慮して、EMS活動による①と②の削減成果をまとめますと、

- ①電力消費；66%まで削減（正味で133%に増加）
- ②燃料消費；56%まで削減（正味で115%に増加）となりました。

(2) 活動大項目その二…資源消費の削減

本項目活動は、③「水」消費削減、④「紙」消費削減、⑤「廃棄物削減とリサイクル率向上」の3点です。

- ③水資源；90%まで削減（正味190%に増加）、
- ④紙資源；64%まで削減（正味127%に増加）
- ⑤廃棄物量；77%まで削減（正味173%に増加）、リサイクル率；30%⇒95%大幅にリサイクル率増加。

(3) その他の「活動項目」

当社の主力商品の中に「各種の家庭用及び業務用洗剤」があります。一般的にこれらの製品においては、大きな環境影響を与える化学物質ではないものの「PRTR対象化学物質」に分類される原料が使用されているケースがかなりあります。

PRTR対象化学品とは、その物質が環境中に排出された際、程度の差はあれ、自然環境に何らかの“マイナス”の影響を与える物質であるため、ある一定量以上の量については、移動や環境中への排出量を国レベルで把握し、監視する対象に上げられている物質を言います。

当社は自然派のサラヤとして、その他の活動項目の一つとして、EMS活動開始以来、

⑥PRTR対象原料の可能な限りの使用回避を商品開発目標として、新たな商品開発に取り組むと共に、既存製品についてはPRTR対象原料の代替検討にも取り組んできました。

さらに、企業の社会的責任として当然のことではありますが、

⑦起こりうる事故・緊急事態を特定しそれに対する、従業員の教育・訓

練を毎年実行すること、また、

⑧関係する各種の“環境関連法規”を法令から細目の施行令、都道府県・市条例にいたるまで特定し、それらを確実に順守していることを部署内で「確認評価」し、かつ、全社の「内部監査」により監査するシステムも確立しています。

(4) プラスの環境活動

上記がEMSのシステムでの「環境管理活動」ですが、近年はこれらの活動に加えさらに、より一層項目⑩の積極的にプラスの環境影響のある活動にも力を入れています。

例えば、当社従業員自身の活動として、

- a) 地域清掃活動への参画
- b) 地域の方々、子供達への「環境教育」「工場の見学開放」等の地域活動に力を入れ、地元の皆様との積極的な交流に努めております。

また、会社としては世界的規模で活動を展開し、本文にも縷々記載しております通り、

- c) ボルネオの熱帯雨林と生物多様性を守る活動。
- d) ウガンダでの「100万人の手洗いプロジェクト事業」への参画活動などを行っています。

以上の様に、この10年間の全員参加によるEMS活動により目標とした各種活動に多大の成果を挙げられたと自負はしておりますが、今後もさらなる努力をする余地があります。それにつきましては、下記以降に述べていきます。



今後の活動について

以上の成果を踏まえ、これからの当社の環境経営に直結したEMS活動における「今後の方向性・方針」から、特に注力したい活動に関して述べたいと思います。

RSPO 認証パーム油の活用(生物多様性保全への取り組み)

サラヤの現在の環境経営の大きな課題の一つに、前述の地球的規模で取り組んでいる「ボルネオ及びウガンダでの活動」に加え、RSPO認証パーム油の活用があります。

冒頭での環境経営のトップメッセージ、グリーン調達他のページにも述べておりますとおり、RSPO認証を取得した“生物多様性に配慮したパーム・プランテーション由来の「油」”を使用した商品開発を早期に達成することにより、生物多様性活動にはずみをつけることが出来ます。将来的には使用する全ての製品原料について、パーム核油も含めて、この生物多様性に配慮した認証油に切り替えることが出来るように努力して行きたいと考えています。

コスト他その他様々な制限事情により、実現は容易ではありませんが、達成出来れば世界中に向けてより強い生物多様性保全・環境保全のメッセージを発信できると考えます。

従来活動の今後の方向について

(1) 地球温暖化防止に繋がる各種活動の積極推進

従来どおりの活動を維持すると共に、新たなエネルギー削減の手段についてはより積極的に導入していきます。例えば電力に関しては、大規模電力消費事業所の、大阪工場、伊賀工場および東京サラヤ本社において、従来形の「蛍光灯」から、より省電力タイプの無電極照明またはLED照明に全面的に切替を行いました。これにより照明用電力の大幅ダウンを達成しました。さらに伊賀工場では、既存の「太陽光発電設備」に加え、新たにもう1基の「太陽光発電設備」を設置予定です。

燃料消費に関しても、大阪工場では今年度、最大の燃料消費設備である旧タイプの「熱源用重油ボイラー」を新型「ガスボイラー」に転換し、大幅なエネルギー効率向上とCO₂発生抑制を達成しました。工場での製造に要するエネルギー以外で、もっとも大きな燃料消費源である「車両」に関しても、従来から低燃料消費タイプの車両へ転換を進めていますが、今後はより積極的に、省資源型の「ハイブリッドタイプ車両導入」も各事業所で進めていきます。

(2) 「カーボンバランス」開発指標の新たな導入…(1)に関連

来年度若干の目標変更をしたい活動項目として“PRTR対象原料”があります。

今年度「化管法」の改正により、一般的な家庭用・業務用洗剤の主構成原料であるAES（アルキルエーテルスルフォネート）という化学原料が、使用量が多大であるところよりPRTR対象化学物質に指定されました。当社製品の洗剤の多くも当然ながらAESを使用する製品でありこの原料使用は不可避です。

従って、PRTR対象原料の使用回避を開発目標としたのでは、新製品開発に大きなハードルが発生します。現在の技術レベルではAESは使用不可避であることより、この項目を開発管理目標からは、はずすこととし、その代わりに、当社・EMS活動大方針である「地球温暖化防止活動への寄与」に繋がる目標設定をいたします。

但し、PRTR対象原料の規制内容にも、環境に多大の影響を与える項目から、AESの様に使用量の多さ故に対象に挙げられる規制まであります。当然ですが、今後の商品開発に当たっても、PRTR対象品の規制の内、環境に多大の影響を与える規制項目に関しては従来同様、開発時の回避事項として、監視していきます。

新たな商品開発管理目標としては、「カーボンバランス」と言う指標を来年度から導入する予定です。カーボンバランスとは、製品を構成する炭素の由来に注目した数値で、（天然由来の炭素源／（化石原料由来＋天然由来）の炭素源）の割合を言います。

この比率が高い程、CO₂の発生が少なくなります。当社は、天然由来の原料を多用しておりますので、市場の一般的な化学製品にくらべ、より高いカーボンバランスの商品を多く製造しております。今後の開発においても、自社製品のカーボンバランスを基準として、よりCO₂発生の少ない＝カーボンバランスの高い商品開発を目指していきます。

(3) 社員全員の環境意識・行動のさらなる深化

当社は、前述の如く全社的にEMS管理活動、世界的な生物多様性保護活動、衛生管理寄与活動等を会社を挙げて推進しています。その中で働く我々従業員も会社での活動の中で日々これらの環境保護につながる活動に参加しています。

その活動をより企業として定着し向上させていくためにも、社員全員の日常生活からの環境意識が大切であると考えます。そのためにも、会社でのEMS活動への参画はもとより、全員の意識向上につながる「啓発教育」、「社内システムづくり」などを積極的に実施しています。

例えば「ボルネオでの弊社を含めた“生物多様性保護活動”についてDVD等を活用した全社社内教育」の実行、「社内広報メディア」による「環境活動の全社広報」などを既に行っていますが、来年度からは、社員の「社外環境ボランティア活動への参加」も可能とする「ボランティア特別休暇の創設」などもとり入れて行きます。

今後も様々な工夫をこらしつつ、世界の多くの人々と共に、当社も社長はじめ全員で「この美しい地球を守る活動」に参加していく所存であります。



環境管理責任者
専務取締役生産本部本部長
富田 晋平

富田 晋平

サラヤグループの概要

商品・サービスとお客様

ご家庭向、清潔と健康のための商品

一般流通市場（薬局・薬店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ホームセンター、無店舗販売など）に向け、ヤシノミ洗剤、ラカントSなど一般ご家庭用の洗剤・衛生用品や健康食品の開発と製造・販売をしています。

食品衛生

食品製造・加工・流通に携わる企業（スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ホテル、外食店、食品工場、給食供給施設など）の安全で衛生的な食品供給のための商品のご提供とお手伝いをしております。

感染予防

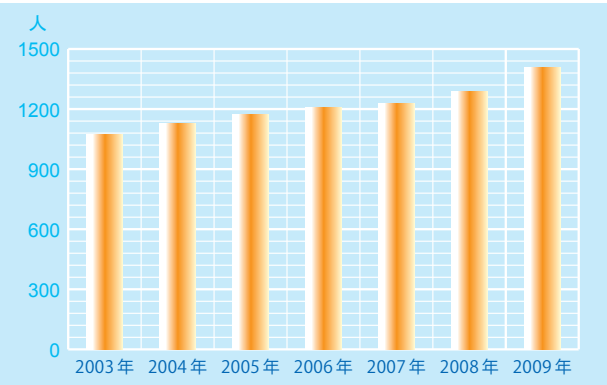
病院、社会福祉施設、在宅介護関係、研究施設などの疾病予防や院内・施設内感染予防の商品のご提供とお手伝いをしております。

働く人の健康管理

学校、官公庁、地方自治体、事業所、オフィスビル、スポーツ・アミューズメント施設などの疾病予防のための商品のご提供とお手伝いをしております。また、健康保険組合などを通じて、職場のうがいや手洗いによる衛生の向上のための商品のご提供と、生活習慣病の予防や健康的なライフスタイルのお手伝いをしております。

従業員数（サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社）

サラヤ株式会社	977 人	（2009 年 10 月 末現在）
3 社	1407 人	（2009 年 10 月 末現在）



会社概要

会社名	サラヤ株式会社	東京サラヤ株式会社
創業	昭和 27 年 (1952)	
設立	昭和 34 年 (1959)	昭和 44 年 (1969)
本社所在地	〒 546-0013 大阪市東住吉区湯里 2-2-8 Tel. 06-6797-3111 (代)	〒 140-0002 東京都品川区東品川 1-25-8 Tel. 03-5461-8101 (代)
資本金	4500 万円	6000 万円

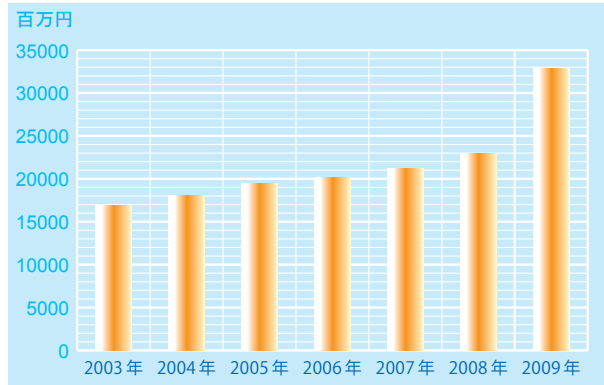
※ 創業は前身である三恵薬糧として創業した 1952 年、設立は三恵薬糧の一切の業務を引き継いでサラヤ化学工業株式会社を設立した 1959 年とした。1984 年、「自然派のサラヤ」を目指し、サラヤ株式会社と社名変更した。

営業・生産拠点と関連会社

営 業	札幌 帯広 仙台 盛岡 北関東（さいたま） 水戸 群馬 新潟 東京 城北（東京） 千葉 八王子横浜 静岡 名古屋 松本 浜松 京都 金沢 大阪 神戸岡山 四国（香川） 広島 九州（福岡） 南九州（鹿児島） 沖縄
工 場	大阪 伊賀 熊野 中国（東莞） タイ（チョンブリ） アメリカ（ケンタッキー）
研 究	バイオケミカル研究所（大阪）
海外拠点	ヨーロッパ支店（ブラッセル） 北京駐在員事務所 ハノイ事務所
関連会社	スマイル産業株式会社 有限会社 熊野薬草園 Best Sanitizers, Inc. Saraya HongKong Co., Limited Saraya (Shanghai) Biotech Co., Ltd. Saraya Australia Pty Ltd. Saraya Canada Co., Ltd. Saraya Korea Co., Ltd. Saraya International (Thailand) Co., Ltd. OOO Best Sanitizers CIS Saraya Taiwan Co., Ltd. Saraya Hygiene Malaysia Sdn. Bhd.

年間売上高（サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社・スマイル産業株式会社）

サラヤ株式会社	269 億	7 百万円	（2009 年 10 月末現在）
3 社	328 億 6 千 6 百万円		（2009 年 10 月末現在）



環境レポート 2010 Sustainability Report

発行日 2010 年 10 月
発行 サラヤ株式会社
編集・制作 サラヤ株式会社 高橋 厚子
お問い合わせ先 サラヤ株式会社
〒 546-0013 大阪市東住吉区湯里 2-2-8
TEL. (06) 6797-3111 FAX. (06) 6700-6656
ホームページ <http://www.saraya.com/env/>



表紙の写真

撮影者： サラヤ株式会社
竹谷 健太郎
撮影日時： 2010 年 5 月 27 日
撮影場所： マレーシア サバ州



P27 のキナバタンガン川下流域の保護区、オランウータンのための吊橋第 1 号の固定カメラの映像のひとつです。結構いい感じで周りに溶け込んでいて、カニクイザル(?) のファミリーにも随分気に入られているようです。



編集後記

COP10 関連で、色々仕事や連絡が増え、発行が遅れてしまいました。今回は、もっと早く発行できますよう努力いたします。

なぜ多様性が必要なのか？

2008 年の編集後記に書いて、それ以降本編にも入れている文言ですが、「ボルネオの熱帯雨林 1ha あたりに同種類の木が数本しかない。」それ程の多様性が、なぜ必要なのかということをいつも考えます。そのひとつの答えが、地下にもあると思いました。

日本の雑木林についての、とある TV 番組で、木の種類によって、根っこが地中深く伸びるもの、中間の深さで横に広がるもの、表面近くで広く浅く広がるものなど色々あって、それらが絡み合って山を縛って、土壌をしっかり抑えていると、人々は木々の地上部分しか見ないけれども、地下でも大きな仕事をしていると、里山を守っている人が言いました。

翻って、熱帯雨林のことを考えました。温帯では老木は空洞になっていることが多いですが、ボルネオでは板根のように自立した形の幹や着生した無花果が何本も樹上から根を下ろして、それがまた絡み合って、網目構造の幹になったりしています。幹からして、円柱だけではない、多様な形態になっています。

根っこはさらに多様で複雑に絡み合って、地上 70 m の樹高を支えられる構造になっているのだと思います。ドロドロの泥炭地の上の湿地帯でも樹高 70 m を支える構造が地下に必要なわけで、そんな構造をかたちづくるのには、それほどの複雑さと多様さが必要とされるの

だと思います。たくさん木が地上と地下でひしめき合ってお互い支えあっているのが熱帯雨林の姿で、太陽エネルギーを無駄なく効率的に利用するシステムをつくっています。

絞め殺しの木については、昔は私も「生き馬の目を抜くような生存競争」という見方をしていました。実際にジャングルに入って以来見方は全く変わりました。フタバギ科の木が天を目指して、自分で枝を落としながら上へ上へと真直ぐに伸びて行き、オランウータンなんかが無花果の種を樹上に残して、しばらく共存して、選手交代という風にもっと構造的に安定した網目構造の木と入れ替わります。そんなリレーを熱帯雨林全体で絶えず繰り返していて、穏やかで、調和があり、何か森全体に意思がある 1 つの生命体のように、超越した存在に感じられます。

野生のオランウータンは木のてっぺんに枝を折り曲げて寝床を作ります。因みに、折れた枝は体にあたると痛いので、歯で噛んで柔らかくしておくそうです。もし、庭師が剪定するとしたら、とてつもなく危険作業になるでしょう。オランウータンが、もしもいなくなったら、またこんなところでも熱帯雨林は様変わりしてしまうかも知れません。

ところで、吊橋の固定カメラに、スマトラ島などに目撃談が多数ある未確認生物、オラン・ベンデク（身長 1 m、直立歩行の類人猿）の姿が捉えられたらいいのにと思ったりします。40 年位前にボノボも新発見されたことだし、キナバタンガンのあの辺りにも、ひょっとして…（高橋）